

石炭鑛業 互助會報

第三卷・第五號

昭和三十三年五月二十日發行

社団法人 石炭鑛業互助會

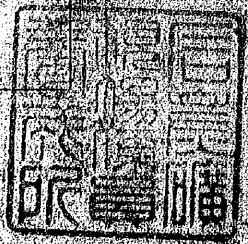
昭和三十三年四月七日第三種郵便物認可 (毎月一回二十日發行)
昭和三十三年五月十七日印刷地本 昭和三十三年五月二十日發行

目次

(卷頭言) 勝つて兜の緒を締めよ	織料協會長	鳴
近代戦の勝敗は燃料に在り	昭和石炭社長	坂本俊篤男 (一)
石炭鑛業の日滿支經濟プロック		古田 慶三 (二)
鐵道購入炭の今昔物語(上)		高橋 隆 (三)
落磐災害の二、三に就て	福鑛局技師	徳川憲太郎 (四)
滿洲及び北支那現地視察記	日本鑛業特派員	立石 峻藏 (五)
滿支炭が存分使へるのは何時か	關西共火	北谷 與一 (六)
勞資協調の指導精神		(七)
石炭 船運 賃		(八)
保護坑夫許可其他		(九)
本會 記事		(一〇)
重役會並に理事會		(一一)
鐵鋼材統制事務打合會概要		(吉 賀) (一二)
鐵の種類とその用途		(一三)
第二回事務打合地方部會概要		(一四)
石炭鑛業權設定	(福岡鑛山監督局管内)	(一五)
炭界 日誌		(一六)
互助會 文藝		(一七)

五月號

石炭鑛業互助會發行



京都帝國大學助
教授 理學士

上治寅次郎先生著

昭和十三年二月刊行

北松浦炭田地質說明書

附錄

袋入折疊炭田地質圖並炭層柱狀圖
炭層對比圖七種ヲ納ム

◆菊版 函入

插圖化石寫真數種

◆分讓實費參圓

(送料十錢)

長崎縣北松浦郡佐々村
北松南礦業會發行
振替福岡三四二五番

北松浦炭田は將來益々開發せらるべきものなるに拘らず、其の地質文獻稀有にして、採炭計畫樹立に不便尠からざるを遺憾とし、夙に本邦炭田地質の研究に蘊蓄を有する京都帝國大學助教授理學士上治寅次郎氏に囑し、氏の數年に亘る眞摯なる學問的良心と鏝骨なる苦心との下に根本資料を探り、以て實地調査と學理研究とを併せて成就し、即ち茲に本書を得たり、是蓋し北松浦炭田寶庫開發の鍵たるや言を俟たず、敢へて坐右必須の書として汎く斯界業者に之を提供する所以なり。



頭 卷

勝つて兜の緒を締めよ

昨年七月七日の蘆溝橋事件以来僅々三箇月にして、支那の心臓部たる上海を抜き、半歳ならずして首都南京を攻陥し、今又五月十九日を以て南都漢口防衛の最大有力據點たる徐州を完全に陥落せしめた。

徐州會戰は今大軍事變に於ける一大劃期的意義を有し、軍事的にも政治的にも將た國際的にも内外の注目を集めて居る。蓋し其會戰は日露戰爭に於ける奉天會戰に比すべく、徐州は滿洲軍變以來七年の日月と莫大の経費を投じたる抗日陣地所謂時介石ライソンの肩の要にして、蔣の直系中央軍、西南軍、四川軍其他の各軍より成る四、五十万の大軍を集結し、名將廣西派の巨頭李宗仁を總司令として之を指揮せしめ、蔣介石自身亦不斷の督勵に努めたのである。

然るに無敵皇軍一度び行動を開始するや、神速果敢恰かも天兵の降下に似たる超人的戰鬥力を發揮して、南進軍と北上軍とは陸空相呼應し、分進合擊忽ち包圍殲滅戰の態勢を整へ徹底的大打撃を與へ、世界最強の陸軍としての眞價は遺憾なく發揮されたのである。吾等は茲に謹んで天皇陛下の御稜威を敬仰しつゝ、我が將兵の一死報國の努力に感謝し、大日本帝國の光榮を祝福する。

併し乍ら徐州の一戰に於て、殲滅的大打撃を與へたとしても、蔣政權が直ちに崩壊するとは限らない、勝負は徐州陥落によつて決定的になつてゐるけれども、蔣政權の止めを刺すには、なほ幾何かの時間を要するのである。

我が國民は漫りに戰勝熱に浮かさるゝことなく、勝つて兜の緒を締め冷靜に嚴肅に堅忍持久以て國民の全体的緊張によつてひた押しに押す一手こそ、蔣政權打倒の目的を達する大道である。

(鳴澤)

第廿七條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統轄シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ之レニ代ル理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ執行ス

第廿八條 本會役員ハ名譽職ニシテ無報酬トス

第廿九條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十一條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十二條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十三條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十四條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十五條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十六條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十七條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十八條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第三十九條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十一條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十二條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十三條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十四條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十五條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十六條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十七條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十八條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第四十九條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第五十條 本會役員ハ左ノ通り定ム

第廿七條 會計年度ノ終リニ於テ剩餘金アルトキ之レハ基本金ニ歸入シ又ハ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第廿八條 本會ノ會議ハ左ノ五種トス

第一 臨時總會

第二 臨時理事會

第三 臨時評議會

第四 臨時監事會

第五 臨時職員會

第廿九條 定時總會ハ每四月中一回會長之ヲ召集シ決算ノ承認ヲ求メ會務ノ報告ヲナシ重要ナル事項ヲ決議ス

第三十條 臨時總會ハ會長ニ於テ必要ナル場合若クハ會員半數以上ノ請求アリタルトキ之レヲ召集ス

第三十一條 臨時理事會ハ會長及理事半數以上ノ請求アリタルトキ之ヲ召集ス

第三十二條 臨時評議會ハ會長ニ於テ必要ナル場合若クハ會員半數以上ノ請求アリタルトキ之ヲ召集ス

第三十三條 臨時監事會ハ會長ニ於テ必要ナル場合若クハ會員半數以上ノ請求アリタルトキ之ヲ召集ス

第三十四條 臨時職員會ハ會長ニ於テ必要ナル場合若クハ會員半數以上ノ請求アリタルトキ之ヲ召集ス

第三十五條 本會ノ規則ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第三十六條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第三十七條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第三十八條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第三十九條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十一條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十二條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十三條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十四條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十五條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十六條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十七條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十八條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第四十九條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス

第五十條 本會ノ規程ハ總會ニ決議シ要スルモノトス



==▷ 言 頭 卷 ◁==

勝つて兜の緒を締めよ

昨年七月七日の蘆溝橋事件以來僅々三箇月にして、支那の心臓部たる上海を抜き、半歳ならずして首都南京を攻陥し、今又五月十九日を以て南都漢口防衛の最大有力據點たる徐州を完全に陥落せしめた。

徐州會戰は今次事變に於ける一大劃期的意義を有し、軍事的にも政治的にも將た國際的にも内外の注目を集めて居る。蓋し其會戰は日露戰爭に於ける奉天會戰に比すべく、徐州は滿洲事變以來七年の日月と莫大の經費を投じたる抗日陣地所謂蔣介石ラインの扇の要にして、蔣の直系中、名將廣西派の巨頭李宗仁を總司令として之を指揮せしめ、蔣介石自身亦不斷の督勵に努めたのである。

然るに無敵皇軍一度び行動を開始するや、神速果敢恰かも天兵の降下に似たる超人的戰鬥力を發揮して、南進軍と北上軍とは陸空相呼應し、分進合擊忽ち包圍殲滅戰の態勢を整へ徹底的大打撃を與へ、世界最強の陸軍としての眞價は遺憾なく發揮されたのである。吾等は茲に謹んで天皇陛下の御稜威を敬仰しつゝ、我が將兵の一死報國の努力に感謝し、大日本帝國の光榮を祝福する。

併し乍ら徐州の一戰に於て、殲滅的大打撃を與へたとしても、蔣政権が直ちに崩壊するとは限らない、勝負は徐州陥落によつて決定的になつてゐるけれども、蔣政権の止めを刺すには、なほ幾何かの時間を要するのである。

我が國民は漫りに戰勝熱に浮かさるゝことなく、勝つて兜の緒を締め、冷静に嚴肅に堅忍持久以て國民の全体的緊張によつてひた押しに押す一手こそ、蔣政権打倒の目的を達する大道である。

(鳴濤)

近代戦の勝敗は燃料に在り

燃料の一滴は血の一滴なり

燃料協會長 坂本俊篤 男 述

五月五日より三日間大阪に於て開催せられたる燃料協會第十五回大會第二日講演會の劈頭左の如き開會の辭を述べた。

一、燃料を制するもの世界を制す

燃料問題の必要性は今や國民間に常識化せられんとするの有様である。即ち燃料を説く者は必ず國策の字を冠し國策を説く者は必ず其下に燃料を語はざる者なきに至りしことは國民間に於ける燃料に對するの理解の一大進歩と云はざるを得ぬと思ふのである。翻つて昨年日支事變突發以來我皇軍の向ふ處抗敵なく、乍にして敵の難攻不落として頼みたる上海を抜き乍にして敵の首都たる南京を陥れ、今や黄河以北、北支五省は我が皇軍の旗風に靡かざる處なく、北支中支相呼應して支那國民の間に新政權の樹立を見んとするに至りしが如き、未だ曾つて世界戦史に其の類例を見ざるものであつて今や世界を擧げて我皇軍の行動の神速果敢なるに對して其の驚異の眼を睜はりつゝあるのである。特に我空軍の目覺ましき働きに至りては彼等の前には海もなく山もなく其の兩翼の行動半經の掩ふ限り敵の陣地や其の軍事施設又は交通機關を粉砕し敵をして茫然自失其のなす處を知らざらんとするに至らしめたる功勳に至つては其の壯烈なる眞に鬼神を泣かしむる概がある。長偏へに我皇軍の忠勇無双死を見ること歸するが如き軍人精神の發揮に依るものとは云へ一面には其の此に至れる原因がなくてはならぬ、夫れは何かと申せば近代兵備なるものが次第に科學的向上の一途を辿りつゝある結果なりと云

はざるを得ず、即ち近代兵器の精華たる軍艦を始めとして航空機にせよタンク、自動車、トラックにせよ皆この液體燃料を以つてその原動力となすものであるから近代の戰爭にはこの液體燃料を多く持つものは勝ち寡なきものは敗れ即ち戰爭の勝敗は一つに燃料の多寡如何に依つて決するものであることは最近歐洲大戰の例に依る。殷々乎として火を賭すよりも燎かである。宜なり、以前は海を制するものは世界を制すと云はれたものは今や一變して燃料を制するもの世界を制すと云ふことが常識となつて來たのである、然り戰爭に勝たうとするに先以て燃料において勝たねばならぬ。

二、燃料の自給自足を痛感す

茲に於てかこの非常時に方りこの大切なる資源如何と云ふことが吾人の前に課せられたる深刻なる重大問題となつて居る、然るに我國は世界中この天然資源に恵まれざる一國であつてその供給は需要の一割を充たすに足らずと云ふ有様で國防上産業上實に寒心すべき立場に置かれて居ることは既に御承知の通りでこの意味においては電力の國家管理も國家總動員法もこの時局に對しては必要であるがこの燃料國策の實現こそこれ等の國策に先行して實績を擧げねばならぬと思ふ。尤も平時におき世界物資有無共通の原則に依り或程度までは國外の資源に依存すること亦必ずしも悪しからずと致すも一朝太平洋に浪立騒ぎその必然の結果として我が海上權が西部太平洋に蹙まる場合を想像する時は三伏の日尙肌を粟を生ぜざるを得ないのである。幸にして今次の日支事變に際しては我海上權に何等微動だに受けざる結果として國外資源依存の上今日まで別にさしたる影響を來せるが如きことなきを得たが元來日支事變に對しては英米佛を始めとして彼等は對支利權擁護等の關係よりして我に對して外交に必ずしも有利と云ふを得ず動もすれば對支援助に傾きつゝある今日今後外交との成行如何に依つては燃料國外依存の上如何なる影響を齎らし來るべきやは大に警戒を要するものあるを思わしむるものである。即ち國外資源依存の危險から一日も速に之を逃るゝの必要あること、換言すれば燃料の自給自足を痛感する

ものである。されば近來政府當局に於て茲に鑑みる所ありてか昭和九年の石油事業法、帝國燃料興業株式會社法、ナルコ
ール專賣法揮發油及石油資源開發法等それ／＼燃料國策に對する施設漸く其の緒に就かんとするに至りしことは誠に慶賀
に堪へざる處であるが然も其の實績を擧ぐるは今後尙四、五年の歲月を要さねばならぬ、この時局を救ふの意味に於いて
は所謂遠水近火を救ふ能はざるの憾があるのである。さればその窮餘の一策として今回表はれて來たのが燃料節約問題で
ある。即ち昨日まで國家問題として喧しく論ぜられたものは一轉して社會問題として其の半面を表はして來たものである
換言すれば國民の足の問題となり、臺所の問題となり、道行くパスのガラス戸には燃料の一滴は血の一滴などと悲痛の
張紙さへ見受けるに至つたのである。

斯くの如くして今回の燃料節約は社會の種々相の上において喜劇、悲劇乃至は能率の上には種々考へさせられることが
あるとしてもこの窮餘の一策としてはこれより以上有効なる方策は外に見出されなと思ふのである。大阪方面は常に燃
料問題に就ては特別のインテレスを拂はれ今回の節約問題に就ても臣民共に卒先之に順應するの策を講ぜられつゝあるや
うに聞及んでゐるが今後も此點に就ても充分の御盡力を希望して止まぬ次第である。

三、石油の不足と石炭液化問題

燃料問題の對象物中最も重要性を有する天然資源即ち石油に至つてはこれを遠觀的よりすれば地球上有限物として比較
的早くその跡を斷つべきものと思はれるが、これに反して齊しく有限物ではあるが石炭の方は比較的壽命が永いものと見
られて居る様である。茲に石炭液化即ち人造石油と云ふものが新なる裝束を着けて五人の前に登場することになつて來た
のである。即ち昭和十八、九年ごろになると今日芽生へて來た計畫の人造石油の工業がフルパワーに働くことになるとこ
れがために優に一千萬トンの石炭を要することになると思ふ、之に其の時分になると凡ての石炭の需要額を合せると今日
の倍額即ち約七八千萬トンに昇るのではないかと思はれるが之に要する石炭は何れの處に之を求むべきか、朝鮮滿洲にし

ても其の頃には人造石油用其他の工業の發達に應じなければならぬとすれば恐らく内地に輸入するの餘力を存するか否、
甚だ覺束ないのである。

茲に於て石炭問題は又々將來に向つて我等の頭痛鉢卷の問題となつて來るのである。

今日只今より關係諸權威者に御願したる演題も主として石炭問題を中心として其の蘊蓄を傾けらるゝ事に見ても此の石
炭問題が現下國家に取つて如何に重大性を有するかを知るに足るものと思はれるのである。
之を以つて開會の辭とする。

石炭鑛業の日滿支經濟ブロック

昭和石炭株式會社
取締役社長 古田慶三

最近軍機保護法が發布せられ、石炭は最も軍事關係が深いため色々の統計を發表することは差止められました。従つて
今日の講演もこれが爲充分に統計により御話する自由がないのを遺憾と思ひます。従つて極く概括的の石炭界の情勢を御
話する外はありません。

今迄既に發表した數字は新聞、雜誌等で御承知と思ひますが、過去四、五年間の炭界は非常に好況を以て推移して來ま
して年々四、五百万噸づゝ新たに需要が増加し、約二千万噸以上の需要激増を來しました。之に對しては、悲況の後をう
けて經營を縮少してゐた爲出炭の餘格が大いにあつたのでありますから如此需要の激増に應じて増産を實行して何等事業

上の支障を與へず、需給の圓滑を計るを得ました。

今後軍需關係豫算は年々益々増大し之に伴ひ軍需工業其他一般工業は盛になり益々需要は増加する一方で、恐らくこの盛況を維持すること、思ひます。殊に帝國燃料興業會社も最近成立の運びに確定しましたのでこの方の新需要が起ります。その數字は最近一、二年間は餘り多額には上らないであらうが、工場が各所に新設さるゝに従ひ新たに大々需要を喚起することは疑ありません。この新需要と一般需要とを加へて見ると、數年後には恐らく一千万噸近い需要が年々新たに必要となつて來ます。これが供給は仲々困難な事業で、現在の設備の擴張だけでは到底供給困難となるであらう故に新たに炭坑の開發を爲し兩々相俟つて供給力の充實を計る外ありません。政府も此の點に關心を持たれ、今時五ヶ年の需給豫想を作り、萬支障なきを期することになつてゐます。昭和石炭も其の點に付ては既に五ヶ年需給を豫想し、之に對する増産計畫も樹て、着々其の實現を計ることに努力してゐる譯であります。

二

斯くして需要供給の統制は計畫丈は樹つてゐる譯であります。この計畫の實現に伴ひ物的並に人的の必要が起つて來ます。現在の状態から考へると機械設備は何れの工場も手一杯で仲々急速に機械を作ることも困難な現状であります。又技術員の増加は高級技術員は勿論であります。殊に下級技術員の増加は内地増産計畫から云つて必要であるばかりでなく後に申上げる北支炭礦開發の上から見ても絶對必要缺くべからざることあります。政府も此の點を大いに了解せられて種々臨時の技術員養成計畫を樹てられて既に實行されて居りますが、現在の計畫ではまだ極めて不十分なのであつて、我々を以てすれば政府計畫の數倍を必要と考へて居るのであります。技術員の増加は極めて緊急を要する事柄であります。上に、其の養成の完成には少くとも二、三年を要するのでありますから今から早速其の大々的養成に着手せらるゝことを政府當局に切望して已まぬ次第であります。

次に労働者の補充、増加が急務になつてゐますがこれも事局の爲に召集されてゐる労働者が全國で相當多數に上つてゐる實情であります。この補充は最も急務であつて、この補充ができぬ限り現在より尙増産は益々困難を増すであらうと思ひます。この礦夫補充に對しては鑛業家自身の力の及ばぬ所もあります。労働者募集及び積出港の積込設備等はどうしても政府當局の力を借りねばなりません。目下關係各省に向つては實情を述べ、對策を講ずることを陳情してゐます。幸ひに豫定通り實現を員るに於ては供給も計畫通り實行し得ると思ひます。目下政府でも極力この問題に關心を持たれ、夫々關係各省の間で調査研究されてゐますから、良い方法が確立されること、信じます。

三

何れにしても、斯くの如く需要に激變を來す以上は獨り鑛業家のみの努力では及ばぬ所がありますから官民協力してこの重大問題を解決することに努力せねばならぬと思ひます。其の爲には數年後の需要が恐らく七千五百万噸位に激増すると云ふ計畫の下に各方面に關聯した準備を總て平行的に進めて行く必要があります。

一 休斯くの如き需要激増が年々續くとすれば、日本の炭量より見て將來はどうかと云ふことを同時に考慮する必要があります。我國の炭量は未だ正確の所は調査されてゐませんが、先年商工省の行つた調査によれば、内地で百六十餘億噸であつて、之に領土即ち南樺太、朝鮮、臺灣等を假に四、五十億噸と見て之を加算すると二百億噸位のものになります。其の採收率は從來は能率が甚だ悪かつたのですが、機械の改善、技術の進歩により殆ど餘す所なく採炭し得る可能性もあり又深所も採掘し得ることになりますから、從來よりは更に採收率が向上すると思はれます。目下商工省では更に炭量、炭質の調査を繼續事業として着手されてゐますから、近き將來には尙一層精密な炭量、炭質の調査も出來て、所謂適材適所の石炭使用上の進歩向上も計り得ること、思ひます。

四

しかし之に甘んじてゐる譯にも行きませんから、更に隣邦等に資源を求め、他日の準備を講ずることが必要であります。既に滿洲に於ては撫順炭坑以外に各地に豊富なる炭田がありますから、此等を統一して開發する目的の下に先年滿洲炭礦會社を設立され、資本を増資して大に開發を奨励することになつてゐますから、數年後には此の方面の發展は充分期待されると思ひます。しかし滿洲國に於ても各地に工業起り又土地の開發せらるゝに従ひ、國內需要も著しく増加致しますから、其等の需要を充した上に尙大なる餘力を残して之を内地に輸入すると云ふことには多大の期待をかけることは困難ではないかと思はれます。

然る以上、國家百年の計を爲すには其等以外に石炭資源開發の計畫を樹てる必要があります。支那との戰爭は連戰連勝の勢を以て、北支、中支は日本の勢力範圍に歸しました誠に御同慶とする所であります。速かに此方面の資源を日本の手により開發すべく半官半民の大會社が出来る場合になつて來ました。山西、山東及河北省の炭田は支那の中でも最も豊富の炭量を持ち、鐵其他の金屬礦量にも富んでゐますから、この好機會を逸せず、先づ以て日本の資本、技術を提供して所謂軍事行動と經濟行動と並行して支那の豊富な資源開發を計り、今後日支の經濟提携によつて離るべからざる密接な關係を結び附けて以て日支親善を誘導し、支那をも利益に均霑せしめて日本の經濟的發展を計るべき時期に直面してゐると思ひます。

銃後の援助は最も必要でありすが、それと同時に經濟上の行動を起して支那をして自治政治の下に生命、財産の安全を期せしめて支那の資源開發を日本の手で爲す覺悟が最も必要であつて、又日支國交上の眞の親善も之により行はるゝものと信ずる譯であります。既に占據した都市には地方々々に自治會を設け、支那從來の虐政に虐げられてきた國民に安心して生活、業務を営ましめる道を開き、支那の經濟的發展に助力して、支那國民の幸福を計らしめ同時に日本の經濟力の發展を計るのが最も急務と信じます。

五

差當つては山西省の大同及太原附近の支那第一の豊富な炭坑及河北省の井陘、正豐炭の開發を最も急務と考へます。先年日本の炭礦業者の主なる有力者が支那の炭礦に今から手を着け國家百年の計をなすべくシンディケートを作り、政府も之を非常に援助され、大同炭礦の權利を獲得して日支合併の會社則同寶公司を設立したことがありますが、當時は排日熱の最も盛なりし爲め事業に着手することができず、其の儘になつて時期を待つてゐたのであります。此等は既に得たる此權利を今日活用し炭礦業者の主なるものを糾合し、更に廣く資金を募集して其資本と技術を提供してこの方面の炭礦開發に乗り出すべき機會が漸く到來したのであると思ひます。此等は大に内地礦業家は勿論、一般産業家の奮起を希望して止まぬ所であります。

北支五省の石炭埋藏量の正確なる數字は判り兼ねますが、支那實業部の調査に依りますれば一千三百二十八億噸に昇り支那二十省の五六%を占めて居ります。就中、山西省のみにて一千二百七十億噸を占めて居ります。又別な方面の調査に依りますれば山西省だけでも無慮七千四百四十三億噸に達すると云ひ、兎に角北支に於ける石炭埋藏量が極めて豊富であることは衆論の一致せる處であります。加之北支の石炭は高度瀝青炭并に無煙炭を以て大部分を占め此等の石炭は我が國に於て最も缺乏して居るので非常に要求せられて居る處のものであります。如此豊富な炭量と炭種を有するにも不拘今日迄北支の石炭業が發展しないのは、要するに秩序の安寧と生命財産の安全が保障せられないが爲めに、空しく天然の富源を遺棄せられて居たのであります。

夫れにも不拘北支の石炭探掘量が今日の支那全体の産業を支へて居ると云つても決して過言ではないのであります。即ち開戦前の支那二十省の産炭高は有煙炭千五百三十萬噸、無煙炭五百三十萬噸、褐炭十九萬噸、合計二千七十九萬噸であります。此内北支五省の産炭が千四百二十萬噸で實に全産炭高の六八%を占めて居ります。如此埋藏量に於て五六%を

占め、産炭量に於て六八%を占めて居ると云ふ事は北支五省が全支の工業に向つて如何に重要な地位を占めて居るかと云ふ事が御了解出来ると存じます。

六

上海は支那第一の都市で其工業の盛んなる事も支那第一であります其の上海の工業が何に依つて維持せられて居るか云へば、夫れは北支五省の石炭に依つて支へられて居るのであります。上海から北支の石炭を取り除けば上海の工業は滅亡すると云つても決して過言でないのであります。日支事變勃發前の六月に終る一ヶ年間の上海の石炭消費量は三百五十六万噸でありまして此内北支炭は二百八十万噸に達し實に七一%を占めて居る、これを以て見ても如何に北支の石炭が上海工業の使命を制すべき力を持つて居るかを知らる事が出来る、人口から云つても石炭の消費量から云つても上海は我が大阪と略々同じ地位にあるのであります。今大阪から二百八十万噸の石炭を奪ひ取つたと致しますれば、大阪の産業が如何なる状態に陥るかは今更申す迄もない處である、今や皇軍は此の上海に於て莫大の犠牲を拂つて居るのであります此の上海を如何に取扱ふかは極めて重大問題であります、上海對策を講ずる上に於て北支炭の上海に於ける地位を深く認識して善處する必要があると存じます。一言諸君の注意を喚起致し度い次第であります。

政府の屢々聲明する如く我國は決して支那に對して領土的野心を有するものではないが日清、日露の兩戰以上の人的、物的の大犠牲を拂つてソ聯の東洋赤化を防止するが爲めに聖戰を進めて居るのである、此の大戦争をして意義あらしむるが爲めには、如何にするも我々は支那の安定と開發とを計らなくてはならぬ、我等は我等の許す限りの人力と資力と技術とを擧げて北支産業の開發に猛進しなくてはならぬ、而して北、中支産業開發の根基をなすものは石炭である。石炭の開發こそはあらゆる産業の開發に先立つて着手しなければならぬものである、私は日本の炭鑛業が此點を深く認識して敢然起つて北支石炭の開發に猛進せられんことを熱望して止まぬものである、即ちこれに依つて支那に綜合的大工業地帯を建

設して今回の聖戰を最も有終の美を發揮する事こそ統後の國民に課せられたる重大なる任務であると信ずるものであります。

七

今日は戰時状態、所謂非常時で、國民は大決心を要する時であります。政府も亦國民精神總動員を稱へて國民の決心を喚起して居ります。支那との戦ひは既に連戰連勝、充分の効果を擧げつゝ、終局も近づきつゝ、ある様に感ぜられます。しかし國民は口には非常時、舉國一致を稱へ、大なる決心を唱へつゝ、あるが、其の口にする十分の一も今日は行ひに於て形に現はしてゐません。この様に未だ眞面目に決心を實行に現はさないと云ふ點は遺憾に思はれます。彼の獨乙は戰敗の後を亨けて官民一致非常の決心をし所謂臥薪嘗膽勸勉力行、盛に産業を起し、又軍備の充實を計り、今日の強力なる國家を作り上げたのであります。又ロシアは五ヶ年計畫を樹立し、第一次五ヶ年計畫は完全に實現し、第二次五ヶ年計畫も豫定の成績を擧げつゝ、あるのであります、この間強制的に總て國民の衣食、其他生活を犠牲にして、盛に工業を起し、又軍備の擴張を行ひました。これら獨乙及びロシアの大決心とそれの實行とを考へますと、未だく愛國は口に決心を稱へても實行の上に於て及ばない所がある様に思はれるのであります。

今回の戦争を以て終局と速断するのは早計であつて、來るべき尙一層強力なる國を相手として將來戦ふと云ふ止むを得ざる時期が來ることを覺悟しなければなりません。既に今回の事變に對し數十億圓の國費を消費し、經濟上に相當の打撃を與へることは免れませんが、戦後益軍備の充實を計り財政の整理回復を計るのはこれからの我々の決心によるので、それには非常な奮闘努力を要するのであります。まだく戦はこれからだと云ふ覺悟を以て進んで國力充外を計ることが眞に急務であると信ずる次第であります。

大家の御揃ひになつて居る席上で如此き事を申上げるのは甚だ僭越至極に存じますが私は衷心よりかく確信するのであ

りますから卒直、大膽に卑見を申上げた次第であります。御参考の一端ともなれば大變仕合に存じます。

鐵道購入炭の今昔物語 (上)

炭質検査方法の變遷

高橋 隆

一、鐵道購入炭の特色

鐵道購入炭の品質検査方法も現在では各鐵道局の用品試験所で行なふ立派な工業分析の結果に基づく科學的の炭質検査方法に改善されたが極く最近即ち昭和四、五年頃迄は全く幼稚な所謂肉眼的の検査方法に過ぎなかつた。

然らば何故鐵道は全國産炭額の一割強とも云ふべき莫大な石炭を使用し品質の如何は實に重大なる關係があつたにも不拘、數十年前即ち鐵道作業局時代の極めて幼稚な炭質検査方法を昭和の時代迄襲踏せざるを得なかつたかと云ふに全く鐵道購入炭の特色から來たものである。

先づ第一の特色は鐵道購入炭の使用方法が地理的に分散的であることで、即ち苟も線路が延長され機關庫が存在する限り都市は勿論山間の僻地より津々浦々に至る迄存在し其數は恐らく鐵道全體で百數十の多きに達するであらう、従つて一機關庫の消費量は最大と雖も十萬噸を出でず恐らく平均二、三萬噸の僅少數量に過ぎないであらう、右の如く石炭の使用状態が分散的即ち全國的であると云ふことは鐵道購入炭の特色で、瓦斯會社や製鐵所が一ヶ所で數十萬噸とか數百萬噸と

かの莫大なる數量を集中的に使用するのとは全く趣を異にする次第である、而し此使用状態が分散的であると云ふことは亦北海道炭、九州炭、常磐炭、山口炭等地理的に所在の低廉なる石炭を選択使用し得ることで使用上の強味であるが炭種が多數となるを免かれないのである。

次に第二の特色としては國有鐵道の列車運轉状態が千差萬別なるが爲に色々な等級の石炭が必要となることである、即ち高速力長距離運轉を必要とする急行列車があり又各驛停車を爲す短距離運轉の區間列車があり。更に重量の貨物列車を牽引する場合もあれば輕量貨物を運搬する列車もある、猶線路の状態も平坦線の場合もあれば勾配線の場合もある、そこで使用石炭は其運轉状態に適應する石炭が最も經濟的な譯で必要以上に良い石炭を使用するのにも不經濟であるし又必要以下に劣等炭を使つては運轉に支障を生ずる、即ち運轉状態に應じて優劣色々な石炭の使い分をしなければ不經濟な運轉なのである。更に右の外機關庫の點火用とか埋火用と云ふ様な特種の場合に使用する石炭もある、其他關釜連絡、青函連絡川船舶に使用する石炭もあり又工場や驛で使ふ石炭もある、従つて鐵道購入炭は色々な等級の石炭を要する譯で茲に亦鐵道の使用炭種は地理的即ち産地別石炭の外に等級的及用途にも複雑になるのである、鐵道作業局時代並に鐵道廳の出來た時分には使用量も少なく又機關庫の型式も單一であつた爲、石炭の使い分と云ふことは餘り考慮せず一等塊炭の如き優良炭を割合多量に使用したので炭種も比較的單純であつた様であるが、其時分には我國の産炭も良炭が豊富であつたので資澤に使用出來たのである。

如斯使用炭種が産地別の外等級的にも多數になることは又亦一般工場や發電所の使用石炭の單純なると趣を異にする點であらう。結局鐵道購入炭は地理的、等級的、用途別の關係上使用炭種の複雑多數なことは他に類を見ざる所で凡ゆる種類の石炭を網羅すること、なり恐らく鐵道購入炭を一ヶ所に集むれば石炭の展覽會が出来る程である。尙現在では石炭の外に粉炭をピツテで固めた練炭を約三十萬噸も使用して居るが之は煤煙防止を目的として昭和四、五年頃から使い始めた

ものである。煉炭に就いては又別に題目を改めて話すこと、したい。

二、炭質検査方法の改善されざりし理由

右の如く鐵道用炭は其性質上地理的にも品質的にも使用炭種が複雑多數に昇ることが必然的結果であり亦斯くすることに依つて石炭を經濟的に使用することを得るのである。従つて購入仕様書の條件とか検査方法の如きも使用石炭の單純な瓦斯會社や火力發電所の如く簡單に劃一的に極めることは非常に困難であり、又分散的に石炭を使用する結果自然検査する場所も分散的で多數になるので設備及操作を統一完備するのも容易で無く、國鐵購入炭の検査方法を統一し科學的分析法に改良することは當初殆んど不可能視されたのである。之が即ち作業局時代に定められた悪炭検査方法の如き幼稚な時代遅れの炭質検査方法を鐵道廳、鐵道院、鐵道省となるも依然金科玉條として踏襲せざるを得なかつた理由であり、之が改善は如何に困難にして多大の準備と努力とを要せしかが想像されよう。

尙鐵道省に於ける購入石炭の検査場所は現在管内に炭礦所在地を有する門司鐵道局では戸畑に、札幌鐵道局では岩見澤に、東京鐵道局では綴の各炭礦所で集中的に検査し、管内に炭礦所在地を持たない名古屋鐵道局とか新潟鐵道局とか仙臺鐵道局の如きは名古屋、清水、伏木、直江津、新潟、青森、船川、鹽釜の如き各所屬鐵道貯炭場で石炭陸揚の際検査するものである。即ち検査所や各貯炭場では納入石炭の一部を分析資料として採集し所屬用品試験所に送付し工業分析を行なふのであるが、此資料採集の爲には納入炭の全部を代表する様な分析資料を採集せねばならぬので特に資料採集方法が規定している。又資料採集設備としては検査所や貯炭場に「クワツシャー」や「サンプリング」の機械を設けてあるが昔の悪炭検査時代とは隔世の進歩を來たして居る、而して之等の設備を完成するにも相當の經費と歲月とを要し又資料の採集及諸機械の操作等にも多大の訓練を要したのである。

三、肉眼的悪炭検査法の缺點

勿論嚴密に云ふならば現在の工業分析法に依る炭質検査にも納入炭の全體の品質を代表すべき資料採集上の困難、取扱者に依る分析技術上の相違及分析機械の誤差等に因り絶對の正確は得られないにしても、從來の肉眼的悪炭検査方法の正確及弊害の大なりしに比較すれば工業分析に依る品質検査の優秀なることは同日の論でない。今昭和六年頃迄實施されて居つた悪炭検査法の缺點を擧ぐれば實に莫大で如何なる萬難を排除しても改正の必要ありしかを知るであらう、即ち從來の炭質に対する制裁は悪炭混入歩合の制限であつて悪炭混入歩合四〇迄は許容され其の制限超過部分丈無代沒收であつた、例へば試験炭の悪炭混入歩合が六〇あつたとすると二〇超過するので納入炭千屯に就き二十屯沒收されたのである。而し此悪炭なる名稱が又鐵道獨特の名稱で頗る漠然たる言葉であるが、之は粗悪なる石炭と云ふ意味であるから普通炭礦で塊炭を選炭する場合に拔出す「ボク」や「ハサミ」即ち石質の夾雜物は勿論更に炭質頁岩や二號炭をも含むものと解釋せられ、要するに正常の石炭に非ざるものは凡て悪炭と稱したのである。従つて悪炭と云つても夕張炭の如き優良炭の悪炭と常磐炭の如き劣等炭の悪炭とは標準が違う譯で、即ち夕張炭と同じ標準で常磐炭から炭質頁岩や冬張二號炭程度のものを悪炭としたならば劣等な常磐炭は石炭全部が悪炭になつてしまふ譯である、兎に角當時の悪炭検査なるものは悪炭の具體的標準がなく又悪炭の程度が石炭の等級に依つて違ふと云ふ始末だつたから検査官も實に取扱に骨が折れたに違いない。

そこで分析試験を實施する迄の過渡的と便法として昭和三年頃から悪炭の混入制限歩合を石炭の等級に依つて差等を附することにしたのである、即ち例へば夕張、美唄の如き優良炭の悪炭混入歩合は三〇とし以下石炭の等級に依り四〇、五〇、六〇、七〇と區別し劣等炭の如きは七〇迄混入制限を増加許容することとしたのであるが、從來は優良炭も劣等炭も凡て均一步合たる四〇と云ふ粗雑な制限で實行不能な不合理な制裁で、検査院に對する申譯に設けたものと見るの外なく實に不合理極まるものであつた。

従つて悪炭検査の當時は品質検査に對する寛嚴程度は検査官に依つて非常な違いがあつたもので、嘗て酒田貯炭場で検査の結果夕張炭に悪炭が割以上もあると云ふ報告があつたので之は怪顔しいと思ひ實地に出張して現品を見たら立派な石炭を亂暴と云はんか目茶と云はんか悪炭として取扱かつた結果であることを發見したのであつた、而し之は強ち検査官の罪と云ふ譯ではない悪炭の具體的標準が無いから起つた間違で先づ悪炭検査時代には鐵道の炭質検査は無検査時代と云ふも過言でない。

次に其他の缺點としては悪炭は塊炭の内から拔出するのであるから切込炭の場合には其内の過半を占むる粉炭に對しては全く検査を行ふことが不可能であつた、而して鐵道購入炭は常磐炭を除いては殆んど切込炭であるから鐵道購入炭の約半分は品質無検査と云ふ次第で極端なことを云ふと切込炭の内塊炭丈良いものを入れて置けば粉炭はどんな粗悪炭を入れて置いても検査には立派に合格すると云ふ次第で切込炭中の粉炭は全く無制裁であつた。

斯く觀察すると鐵道の悪炭検査なるものは缺點だらけであつたが炭種が多いのと分散的使用の結果検査場所が多いので改正することが出来なかつたのであらう、そこで萬難を排しても科學的の工業分析に基づく炭質検査に改善するの必要を痛切に感じ大正十四年頃から準備に着手したのである。

四、工業分析に基づく炭質検査諸準備の完成と保證カロリー制度の實施

炭質検査方法として悪炭混入制限の方法が極めて不完全なるを發見するや可及的迅速に分析方法に變更するの大方針を樹立したが、幸ひ石炭の科學的研究の大家たる岡新六技師が大正十二年頃より官房研究所に來られ専ら鐵道用石炭の研究に従事せらるゝことになつたので分析機械の増設試験方法の改善を煩はし、大正十四年より納入石炭の全部に亘り毎月一回分析を行ひ組織的に納入石炭の炭質を検査することにしたのである、それ迄は官房研究所に於ける石炭の分析は單に新規に石炭を購入する場合とか品質に疑義を生じた場合に分析試験を行なふ程度で石炭に對する化學的研究は頗る輕視

されて居つた、其後岡新六氏が滿洲へ赴むくや松波技師が其跡を襲踏して益々石炭分析の完成に努められ同氏の熱心なる研究と努力に依つて各鐵道局に於ける分析設備並に検査所貯炭場に於ける試料採集の諸設備も完成するに至つたのである。尚松波技師の協力に依り屢々石炭係員の會議を催ふして石炭試験法を制定し、愈々昭和七年度より完全に悪炭検査を全廢して保證カロリー制度を施行し大正十四年以來の懸案を解決することが出来たのであるが、此事は國鐵の石炭購入史上特筆大書すべき劃期的の事實と云ふべきもので當時に於ける關係當局の苦心と努力は永久に記念せらるべきものと想ふ。

尙保證カロリー制度の實施に當りても先づ昭和三年度より試験的に撫順炭に對し分枯に依る保證カロリーを施行し、其他の石炭に對しては大體の品質標準を示すべき標準カロリーを仕様書に記載して保證カロリー制度實行への下準備をなし分析方法施行設備の進行と相俟ちて漸次に保證カロリー實施の素地を造り七年度から實施したのであるが、當時のことを追想すると感慨無量であつて鐵道石炭購入上の一大事業を成完した自己満足を感じ得ないのである、尙前記保證カロリー制度の實施に當りては當時小生の部下として片腕の如く努力せられし鍋島博、中上利吉兩氏の多大の援助ありしことを深く感謝して止まない。

(未完)





落磐災害の二、三に就て

福岡鑛山監督局技師 徳川憲太郎

頭上の天井を打診して落磐

十一月十日、M坑に於ける落磐災害を御紹介する。
採炭夫I君は他の三名と共に作業に従事してゐた。午前九時少し前發破が済んだので、其の煙りの晴れるを待つて切端に入り、仕事に先だち發破による浮石を検べる爲め、天井點検を始めたが、鶴嘴で二三回天井を打つた頃、突然その眞上の厚さ九糎、巾九十糎、長さ百六十糎の岩石が落ちて瀕死の重傷を負ふた。

此の災害では、H君は大體正しい作業の順序によつて來たが、只一つ大いに間違つた事がある。それは同君の立つてゐた位置である。圖の様に浮石の眞下に居て、眞上の天井を打診したのである。即ち天に向つて唾を吐く様なもの



である。發破後、天井その他に危険な龜裂浮石のある事は當然の事であるのに、今少し慎重に打柱の下なり、又は横の方から打診すればかゝる災害はなかつた筈である。天井打診の際、その浮石を自身に受けた災害は從來あまり聞かなかつたので此處に紹介する次第である。

支柱不備の爲の落盤

本年某炭礦で圖面の様な條件から一名の即死者を出した

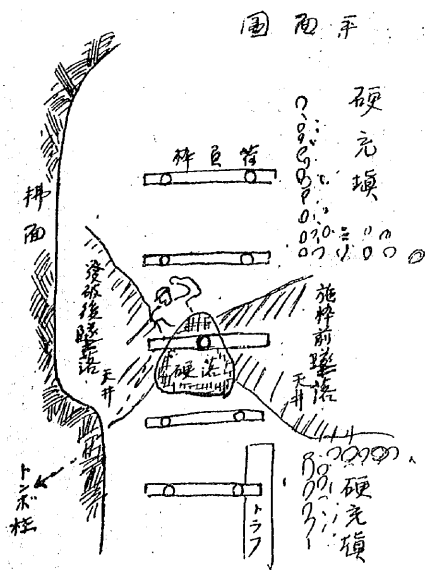
落硬は三角形の中長さ約一米厚さ三〇センチ位である切端の支柱は四尺毎に荷負枠を入れる規定であつたが落硬の箇所は右の方の天井が墜落して地面に硬があつた爲めに荷負の枠を立てられず其の後墜落した左方の天井も其の當時は丈夫であつた爲めに規定に反した『トンボ柱』を打つたのが災害の原因となつた。

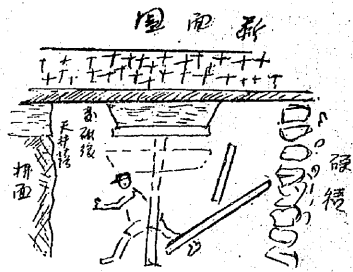
支柱完成後左側拂面に發破をしたが其の爲め左側天井が圖面の様に墜落した、斯くなれば當然トンボ柱の箇所は落ちるに極まつて居る發破後危険の狀況を調べたと云ふがそれが不充分であつたと思はれる、斯くて發破により崩された石炭を八人の従業員で扱込作業中、運悪く『トンボ柱』の下に居た一人は突然落硬の爲めに頭部擽滅即死を遂げた
此の災害の原因は規則的の支柱をしなかつた事が最も重大である、當時落硬の爲め規定の荷負枠の枠足を立てられないとの事であるが何故に落硬を片付けて枠足を立てなかつたか、然も其の位置は以前の天井墜落の形より見ても將來墜落の可能性ある弱點と思はれる。
この弱點に對し規定の支柱以上丈夫な支柱をしなければ

兎も角、反對に『トンボ柱』の様な弱い不安定な柱を立てたから之れは當然落ちるに極まつた事である。

鑛業警察規則第十五條には
落磐ノ虞アル場合ニ於テハ支柱其ノ他危害豫防ノ設備ヲ爲スベシ
採炭夫ナシテ採炭ノ際支柱ヲ爲サシムル必要アル場合ニ於テハ其ノ支柱方法ヲ定メテ遵守セシムベシ。

とあり此の災害の如く採炭切端の支柱を要する場合はその現場に適した切端支柱方法を定めこれを従業員によく守る様に責任があり、従業員は又自己の作業場の安全は自





分の責任であると云ふ建前であらねばならない、本災害に於ても罹災者が仕事を始める最初に今少しく天井の点検を充分にして居たら未然に防止出来たものと思はれる、但し坑内保安係員に於ても事前に危険の虞れがあつたとする場

合適當の處置を執るべき責任があるのは勿論である、係員の職責は鑛業警察規則第十四條に規定されて居る。
坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受ケ坑内保安係員ハ坑内ノ保安ニ關スル事項、坑外保安係員ハ坑外ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル但シ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル他ノ係員ノ掌ル事項ニ付テハ此限リニ在ラズ
坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ毎日鑛夫ノ就業場所、運行場所其ノ他危険ノ虞アル場所ヲ巡視シ落磐瓦斯爆發其ノ他ノ危険ノ有無ヲ検査スベシ危険又ハ危険ノ虞アリト認ムルトキハ遲滯

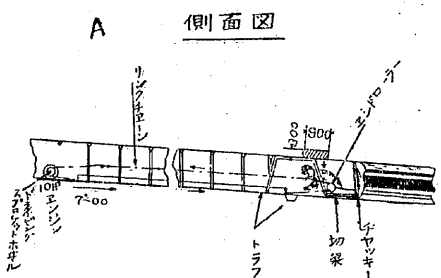
ハク作業ノ中止通行ノ遮斷其ノ他ノ應急處置ヲ爲シ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受ケベシ坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ保安日誌ヲ作り巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スベシ。

運搬装置に因る落盤

本年一月長崎縣下の某炭坑にて切端「コンベヤ」の故障により落磐の爲重傷一名を生じた。

現場はA圖(側面圖)の様に二段の「チェンコンベヤ」があり、其一段目の「コンベヤ」から二段目の「コンベヤ」に移る附近に「コンベヤ」の「エンドローラー」があり、之を「チャツキ」に結びつけて支へてあつた。而して此の場所に限り「チャツキ」が「コンベヤチェン」の緊張によつて倒れない様に荷負枠と枠脚との間に切梁をし

てあつた。
當日は四十餘名の採炭夫が午前六時半頃よりこの切端で作業し、午後三時半頃に至つて「チェン」が嚙込み其結果

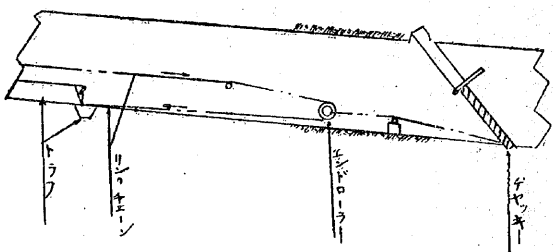


上綱が張り、従つて「エンドボキル」を引きつけ之を支持する「チャツキ」をも強く引きつけ「チャツキ」を引き倒し其の結果切梁の左端の荷負枠をも倒した。よつて従業員の一人名は荷負枕の處に應急の打柱を立てんとし其の枠穴を掘り初めた處に突然天井の浮石が落下して重傷を負ふに至つたのである。

本災害の最初の原因は「チャツキ」の立前が悪かつた事にある。即ち綱が張れば倒れさうな状態であつた爲に其の立前は直さず荷負枠との間に切梁を入れた。此の状態では例へば荷負枠の天井が丈夫であつても「チェンコンベヤ」の震動は「チャツキ」から切梁、切梁から荷負枠に傳はり、次第に天井を悪くしたに相違ないのである。

本災害に鑑み技術管理者はB圖の様に「チャツキ」の立

B圖



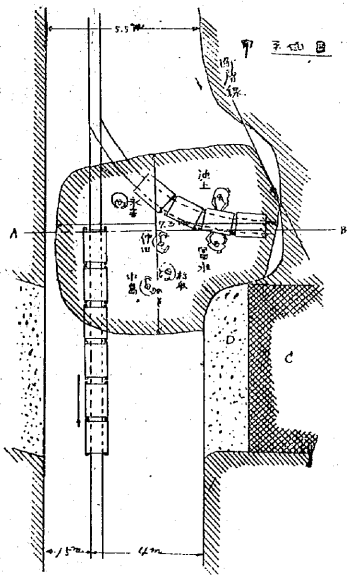
前を約四十五度位に傾け切梁は絶対に使用しない事とし、又「エンドローラー」は「チャツキ」の最下端よりこれを支持する様にしが先づ適當の處置であらう。此の災害に於ても坑内係員に今少しく事前の状態を観察して「チャツキ」の立前を訂正して置いたならば、又罹災者も入念に天井點檢に作業にかゝつたならば未然に防ぎ得た事と思ふ。

古洞、斷層、發破の影響による落盤

三月七日、三池炭礦宮浦坑の落磐災害である。之を發表するのはあまりに事新しく罹災者に對し或ひは失禮に當る

廉があるかも知れないが、然し多數の讀書諸君には災害防止上非常に有益であると信じ敢て紹介する次第である。

甲圖に於て矢の方向が捲卸坑道でありBの入り込んだ處が切端である三月五日の三番方からこの切端の作業を始め七日午前八時頃迄には約三米を進んでゐた、當時二名の従業員池上、富永の兩君は約一時間に亘り十七孔の發破作業を八時頃終了しその石炭を四函の炭車に積込中であつたが三函目の空函は脱線してゐたので之を二人で直して居た時何等の前徴なく一時に大落磐があつた。當時松藤係員は二名の従業員仲田、中島兩君に對し切端の排水準備として溝



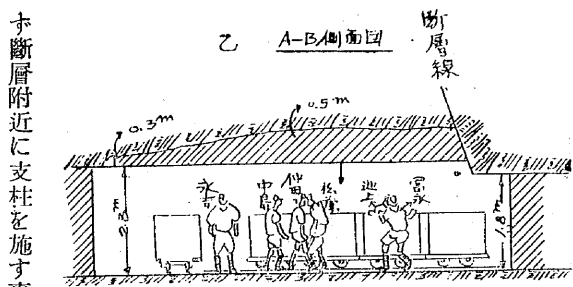
割の作業を話し聞かせ居たものゝ如く他の一名永光君は災害當時上方より此の箇所に行き來り偶々罹災したものゝ如く富永君を除く他の五名は憐れにも殆んど避難の道なく大岩の間で壓死を遂げたが富永君は幸運にも炭函の爲大岩が其の上に掛り僅かの隙間に身を入れた形となり腰部と手先に輕傷を負ふに過ぎなかつた。

此の災害の原因はD部天井の龜裂切端面の小斷層及發破の影響にあるC部は昔の古洞であつて濕式土砂充填が施してあるがD部は捨硬を置いた處で其の硬は天井に接して居ない従つてDの天井は厚さ一尺乃至一尺五寸の古い剝け落があつた。而してこの剝け落に接した部分の天井は災害後の調査により水平に古い龜裂があつた事が岩石の色合によつてよく判斷される。

次に斷層は向ふ下り二尺の正斷層で斷層面の傾斜約七十度位である入り面は比較的に少いものであつたが異狀變化のない此の附近の天井としては最も弱點であつたと想像される。この様に二箇所弱點があつたが更に之を大落磐とならしめたのは午前七時頃より同八時頃迄に至る發破であ

つた、炭車より古洞Dに寄つた箇所は石炭がまだ充分に切付けてないから發破も約十發をかけ炭車より上方の斷層下方面は七發の發破を行つた。此等發破の震動により從來比較的安全であつた切端の下方

天井がDの天井並に水平の龜裂を生じ圖の如く他の區域迄をも引き落したものと推定される。



右原圖に對し豫防方法は即ちD部の如き充填不足のため剝け落を作らぬこと尙剝け落の箇所は其の小口に支柱を施し剝け落の擴大を防ぐ事及斷層は大丈夫と認められても必ず斷層附近に支柱を施す事である。

但し此の落磐の様に大岩の落下は到底普通の支柱で之を支へる力はないかも知れぬが落磐の前徴を知るには充分である事は疑ひないと信ずる、以上事後に於て云ひ得る事で

あるが此所に三池炭坑の特異性として、特記すべきは、炭層厚きに拘らず其の天盤極めて堅固である事である、殊に此の本宮部内の如きは特に天井がよく災害ヶ所は地表より三百五十餘尺とあるが其の間一枚の砂岩天井であり、坑道は明治三十二、三年頃の掘進であるが約四十年の今日迄殆んど支柱なくして天井は當時の儘高落もなく沈下もなく(但し殘柱は残つて居る)何等の變化がないのである、かゝる安全の状態であつたから係員及従業員諸君には他山の様に支柱上の注意を要せず幾分油斷のあつた事と思ふ次第である。

(終り)



滿洲及び北支現地視察記

—主として鑛業並に勞働事情に就て—

日本鑛業新聞特派記者 立石 峻 藏

記者は四月六日下關出發滿洲及び北支視察の途についた。先づ滿洲國を數日間、續いて北支那に入り此處に約一ヶ月餘、河北、山東、察哈爾、綏遠に亘つて主として炭礦の現地視察を爲し、現在は再び滿洲一圓の鑛業事情に就いて認識を深むべく新京に來た。左の記事は此間に於て執筆したものである。

今後北支地下資源の開發に就ては、我國資本の輸出は勿論、特に日本の技術と人材を當然必要とする。随つて日本石炭鑛業の中樞筑豊炭田に於て永い體驗を有する互助會炭礦業者も、必然此地に進出し其の貴き技術或は人材を提供し北支石炭開發の前衛的活動の役割を承り皇軍と共に樂土北支經濟建設の大使命遂行に貢獻すべきではあるまいか。現在、あまり、北支現地鑛業事情の生きたる紹介がなされてゐない際、此の視察記が、いくらかでも參考に資せらるべき點があれば幸である。

滿洲資源館を視る

大連市見玉町に滿洲資源館がある北支滿鮮の鑛業事情視察の旅の
第一歩に、を見得たのは有意義なことであり記者にとりて幸い

なことであつた。

元來本資源館は滿鐵地質調査所が年來其の蒐集にかゝる滿蒙の地質及び圖表類を陳列し來訪者に觀覽せしめつゝあつたが、更にこれ

等々基礎として新に農産、林産、水産及び其他の諸原料品の實物標本を加へ滿蒙の資源を網羅する陳列館を設立することとし、大正十五年三月之が開設に着手し同年十月より一般の觀覽に供するに至つた。而して本館の名稱ははじめ滿蒙物資參考館と稱したが、昭和三年十一月滿蒙資源館と改稱し越えて昭和七年十二月滿洲資源館と改め今日に至つてゐる。

本館の目的とする所は滿洲に於ける鑛産、農産、林産、水産資源の紹介に力を注ぎ、これ等の參考資料を陳列して之に適切なる説明圖解を加へあはせてこれ等の基礎的或は學術的研究の一般を示し以て其の利用開發に資すると共に産業の振興發達に寄與せんとするものであり、將來の滿蒙産業博物館の基礎事業ならんとしてゐるのである。

館は見玉町十字路の一角に二階建洋館の堂々たる偉容を横たへ、館内に二十有五の各種陳列室を擁してゐる。その内鑛産資源は第一室より第九室までを占め鑛業國滿洲の偉大なる全貌をよく壓縮再現してゐる。

元來滿洲は膨大な地下資源を包蔵すると稱せられつゝも、我國が日露戰後此の地に文化的開發を行ひはじめて組織的調査を開始する迄は、自然的にも人爲的にも其の内容は殆んどあるが儘に放棄せら

れてゐたのである。我國の組織的調査開始後といへども滿津事變以前は舊軍閥の排外政策と治安の不整備によつて充分なる調査をなし得ず僅かに舊奉天省、吉林省南部地帯のいはゆる南滿一帯の概查をへたるに止まり舊吉林省北部、黑龍江省、興安省、熱河省の如きは未だ實狀が充分に判明せられてゐない状態である。だが、滿洲國の成長及び北支事變の發生に伴ふ日滿支經濟ブロックの發展と表裏する滿洲國産業五ヶ年計畫の新挿はいや應なく此の眠れる巨大資源の全貌を明らかならしめればやまぬ趨勢にある。

而して滿洲に於ける鑛物を現在迄の結果に徴すれば金屬鑛物にあつては金及び鐵を除いては其の賦存が比較的乏しい様であるが之に反して有用な非金屬鑛物類は多種多量に埋藏せられてゐる事が明らかとなり、この特徴は日本内地の本資源と全く相反するの現象を呈し鑛産工業成立の立場より觀て兩國鑛産資源が必然的に有無相通するの状態に置かざらるゝのを感するのである。以下鑛産資源陳列室を第一室より順次に概觀しやう

第一室 滿洲重要鑛物標本、及金屬鑛物各種標本を主なる

陳列品としてゐるが、殊に參觀者の目を惹くものは、黑龍江省及一間島省方面より産出されたる二百匁以上にも達すべき砂金の大塊である。滿洲の金及砂金は前清時代より普く探鑛試掘せられ其の

産地は數百を數へられてゐるが現在に主として土民の農閑期に極

めて原始的土法に依る採金を見るに過ぎないが砂金地の雄大埋藏量の豊富は陳列品の一端を見ても推知し得る所でありその將來は大きな期待がかけられるであらう。金及砂金の外に銅鑛、鉛鑛、滿鐵鑛、流化鐵鑛等の陳列あり此種資源の情態を推知し得るに足る。

第二室第三室

を通じて石炭關係の資料標本類を網羅してゐる石炭こそは滿洲鑛業の王座を占むるものであり、従つてこの二陳列室は、鑛産物陳列中の壓巻である。本溪湖、西安、牛心台、煙台、田師付溝、蛟河、五湖嘴等の奉天省及吉林省地方の重要炭田北滿のツヤライール、密山、穆稜、鶴立崗、熱河の北票、新邱等の産出炭標本の整然たる陳列があるが就中撫順炭田の露天掘の模倣型と高サ五尺幅四尺立方に及ぶ巨大なる塊炭は内地にて想像に許されざるもので、正に滿洲石炭鑛業の雄大な象徴するものである。滿洲に於ける石炭の埋藏量は昭和十年頃にして概算四十八億噸と稱せられてゐたがその後の調査の結果は殆んどその倍額にも達せんとするものを推定してゐる。昭和十年に於ける滿洲石炭及骸炭の産出額は左の如くである

石 炭 一一、四七四、一九二噸

體 炭

七〇一、八六七噸

更にこの室に於いて見るべきは撫順炭礦々區内に於ける油母頁炭の狀態であらう。撫順に於ける油母頁岩の埋藏量は五十四億噸と推算され其の集約的賦存は世界に比を見ない所である。この埋藏量より四〇%の重油採取を可能とする時二億噸以上の重油を得らる譯でその偉大なる存在を推知し得る。

金、石炭に次ぎ滿洲鑛業にその重要性を主張するものは鐵であるが、

第四室

は之の鑛産標本及、鞍山、本溪湖の操業狀態模型の陳列に當てられてゐる。

第五室第六室

にはマグネサイト、耐火粘土、滑石、矽石、石綿、石版石、螢石等の工業原料鑛産、及び寶玉美の標本により充満してゐる。

全滿洲に亘る鑛産資源はかくてこの資源館内にその全貌を大觀し得るのであつて、鑛業關係専門家に対しては勿論、尠からざる便益を與へつゝあるものであるが、更に一般人士にも興趣盡きざる内に鑛業知識の普及に多大なる貢獻をなしつゝあることは、内滿人の來館殆んど絶ゆる事なきによつても知り得る所である。本資源館の果しつゝある役割又大なるものがある。

苦力の勞働事情

滿洲入りの第一歩に於いて滿洲資源館に全滿鑛業を概観し得た記者は翌日滿洲に於ける全産業の基礎的動力たる苦力情態を知つた。滿洲の勞働力は殆んど所謂苦力によつて占められ全勞働者數の八九%に達してゐるが、その大部分は山東省よりの季節的移入者である。滿洲國では建國以來の方針として滿洲の産業開發には滿人を以つて之に當るべく努力してゐるが今日尙山東移入苦力の勢力は數に於いても實に於いても壓倒的であり之を除外して滿洲の勞働を語ることは出來ぬ實情にある。従つて山東苦力を知ることには直に滿洲の勞働事情を知ることになると言ふも過言ではないのである。從來山東苦力の移入は毎年殆んど百五十萬人内外に達してゐたが、滿洲事變後政府は治安其他の點より一時三十萬人に限定した爲、最近まで可なり減少を見せつゝあつたが滿洲産業開發は五ヶ年計畫の實施期に入ると共に勞働力の急速な擴充を必要とし、山東苦力の移入も従つて漸次緩和されねばならぬ様になつて來た、政府は今年度の移入許可を三十七萬人に擴大してゐる。かくて全滿に於ける山東苦力の實數は百二十萬に達してゐる情態である。

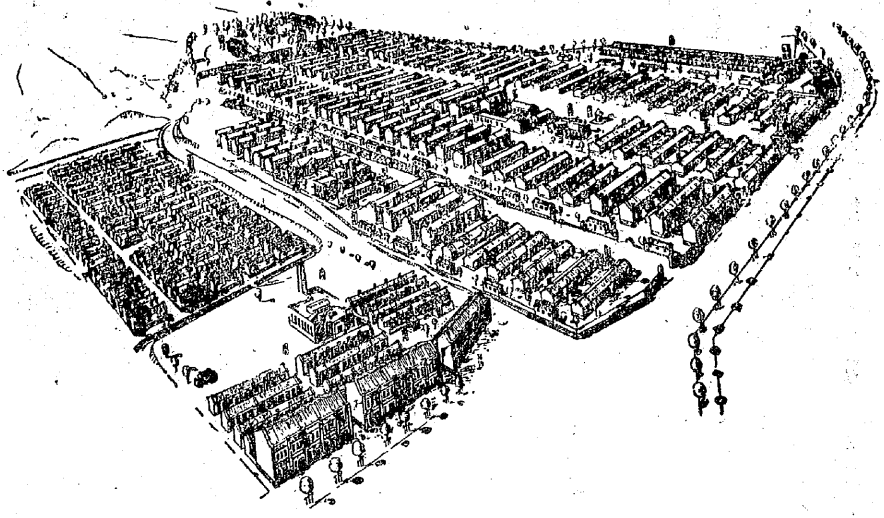
これ等の苦力の勞働事業を最も典型的に見る事を得るのは大連埠

頭を去る東南一哩、東山北麓に存在する碧山莊である。

この莊はその沿革を古く明治四十四年に發し、福岡市出身の先代相生由太郎氏の誇るべき遺業の一つである。氏は當時南滿洲一帯に亘り猛威を逞ましうしたバスター病の蔓延を憂ひ、併せて苦力の統制上時代の趨勢に鑑みるにあり關東都督府の認可を得、滿鐵の承認を経て此處に苦力の大收容所建設を意圖したのであるが、爾來逐年増築或ひは改築を爲し福昌華工株式會社に移管されて今日に亘つてゐるこの會社は大連埠頭に於ける全荷役作業を行ひつゝあつた相生氏經營の福昌商司の經營を大正十五年買收し滿鐵の傍系會社として新らたに創設されたものであり埠頭荷役作業の獨占的經營である

X X

碧山莊は大連埠を一望の中に鳥瞰し得る東山北麓の緩やかな斜面に敷地總坪數三八、三七七坪、建物總延坪數二二、〇〇〇坪に及ぶ赤煉瓦の堂々たる建築九十二棟を擁し一大偉容を誇つてゐる。平家三十八、二階建五十四のこの建物に單身者のみを收容してゐる極めて典型的なもので奥行は普通三間間口は二階建五間位、平家は八間位を一房とし間口に並行して中間に三尺幅の通路を設け兩面に高さ二尺のオンドルを作りその上に寝る様になつてゐる、炊事場は建物の一端に設け五、六坪の土間で一隅に大きな爐を設けて炊事し或もの



碧山莊の全景

はその火氣が坑を通過する仕掛けとし、煖房に利用されるものもある。

この宿舎に收容し得る人員は、實に一七、〇〇〇餘人に達するのであるがその苦力在住者は特産出廻り季節により増減し繁忙期（七月より四月迄）に於いては約一四、〇〇〇人内外、閑散期（七月より十月迄）に於いても約九、五〇〇人より低下せず平均一一、〇〇〇の苦力が定住してゐるのである。

苦力の出身地は山東省が殆んど全部であることは既述の通りであるが、温順、質朴、忍耐力強く、極端な雨營々として一日十時間乃至十二時間の労働に屈せず大連埠頭に荷役作業し、港灣労働者として比類なき労働能率をあげてゐる、彼等の體力の旺盛なることはその頑強なる體格を一見して感知し得るのであるが、實に平均百五十斤の荷擔力があると言はれてゐる。

彼等の生活は日本人の想像を絶する程の素朴さであるが、その強大な體力は却てこの低い生活の中より生み出されてゐるのではないがと思はれる、點さへある。彼等はその主食として彼頭を用ひる、その原料たるメリケン粉は市場の二等粉を以つてし副食物としては菜食を主とし葱、もやし、白菜、大根、豆腐等であるが、もやしはそのカロリー大で、廉價な爲年中常食となつてゐるその調味は鹽と

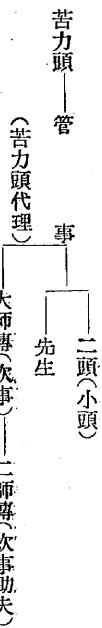
豆油でいためる、葱は生の儘一種の味噌をつけて食ふ、蒜や韭は彼等の最も好物であり支那人と支那人街を特徴づけるあの臭氣のよつて來たるところである。彼等の粗食に就いて本莊の事務管理者は語つてゐる。

彼等の菜食はその心臓を強大にしその血液を清淨ならしめ闘争心を遠ざけ自ら天に近い純朴の生活相を現出する原動力となるのだと思ふ。由來文化を促進したものは常に皺混じりの黒パンや馬鈴薯や菜葉嚙つて大きくなつた田舎者の仕事で決して先祖の御蔭で美食に飽滿する身分の高い人達の伴や都會に育つ生つ白い青年の仕事ではなかつた、ギリシャ、ローマの歴史をたつねるまでもなく現代歐洲の屋臺を作り上げた者も北方の蠻族とさげすまれたカルト人の仕事であつたのでも解る、何時の世、何所の世界でも文化の建設は『粗食を食ひ水を飲み腹を曲げて之を枕とする』貧乏な田舎の青年の仕事である、苦力の生活を見る時この事實を深く暗示されるのである

これには聞くべき多くの事がある様である。内地よりの旅行者は全滿の農村に、都市の工場、街頭、港に黙々營々として働く農夫、工人、車夫、苦力の打ちひしぎ難い肉體力に一種の壓迫を直感するであらう。これこそは實に支那をして國家的には殆んど列國の半植民

地情態に置きながら、常に無視し得ない底力を感ぜしめる源泉であり將來に於ける亞細亞興隆の大動力をなすものではないだらうか、滿洲に於ける彼等の生活を見る時このことをまざまざ感ぜしめらるゝものがある。

苦力の作業及生活を知るに看過してならないものは苦力頭制度（碧山莊にては華工頭制度と呼んでゐる）である。全滿に於ける苦力の集團的作業及生活には内容に多少の相違はあるも殆んど苦力頭制度の下に統制されてゐる。碧山莊のものはその中でも典型的なもの、様である。この制度は資本主義的集中管理により封建時代の産物たる親分子分の關係を加味したものである。全苦力頭に分割統制され一班四、五十名を包擁する三百四十の班を構成してゐるが、その作業及び内務生活に於いて苦力頭に從屬し賃銀計算、仕拂は苦力頭を通じてなされ、作業方面に於いては苦力頭の下にある二頭（小頭）が、内務方面では先生（書記）が分擔支配してゐる



滿洲に於ける苦力頭制度は、大苦力頭制度、小苦力頭制度に分れ

大は一苦力頭の下に千人或ひば五千人に及び苦力を統轄せしむるものであり、範圍大なる作業種類にあつてはその統合連絡上有利であるが、苦力頭の勢力過大化の惧があり、之を防止する意味に於いて小頭程度を一單位とする小苦力頭制度が採用されつゝあるが之は統制繁雜に陥り缺點あり、之の中間をこつたのが、碧山莊に於ける中苦力頭制度である。これは大制度の統轄上の便宜を有しつゝ、その過大化を抑止し得るものと言はれてゐる。本莊に於ける苦力頭は苦力一人當り賃銀（平均六、七十錢）の一割を收得することにまつてゐる。

この制度は近代の合理的労働統制々度より見る時は多分に論議の餘地がある、民族心理、支那の家族制度を背景とし現代の労働爭議の事實を一考する時この組織は一面には彼等の民族心理を尊重し反面には労働爭議を未然に防ぐ必要に急激に改廢すべからざるものがある事を一般に認められてゐる様である。現に撫順炭礦が明治四十三年直轄個人計算個人拂制度採用以來今日に到るもなほ把頭（苦力頭）制度を形式的にも存置せしめてゐるのは、この間の消息を雄辯に物語るものである。

右は滿洲の苦力生活及びその集中的表現たる碧山莊の實に一端の

一小部分を紹介したに止まる。彼等の作業現場の状態、また内部生活の衛生とその對應施設、更に慰安、教育、信教等に就いて語ることは多きも他日に割愛する。まれば滿洲に於ける苦力は今後の産業開發に決定的重要役割を演ずると共にこれが對策は國際的な意義を持つものとして日滿政治、經濟關係者の深甚なる關心を要請するものであり、碧山莊に於ける諸施設は之に對する多くの示唆を含むものである。

大同炭田の概貌

滿洲を過ぎて十四日北京に入つた記者は奥地行の準備工作に豫想以上の日時を取られ漸く十八日京綏線の人となり得今日大同に來り、今次旅行の本格的目的たる北支礦業視察の第一歩を踏み出した奥中公司大同出張所及び大同驛の好意ある幹旋により連絡は充分ならざる大同炭礦への視察の旅を得たことは望外の俤であつた。

推定埋藏量 一千二百七十億噸、全支の五二%に達すると言れる山西省石炭の中實に大同炭田はその王座を占むるものであり、日滿支經濟ブロック完成の暁一大原動力たるべき運命を擔ふものであること、に言ふ大同炭田は山西の山端大同より西南懷仁を経て朔縣に

到り更に北向して小堡、江雲を結んで大同に歸る線に包まれる一帯の地に延長千二十軒、幅平均十七軒に及び炭層を指すものであり、この埋藏量百二十億噸に達すると言はれてゐる。閻錫山が山西モンロー主義の旗幟の下に産業開發に注力して以來大同炭田の開發も進展し、近代的採炭法を探りつゝあつたのである。事變前稼行されつゝあつたものには晋北、保晋、健昌、平詔、同寶、協興、寶恒、恒義、大同等の各煤炭公司があつたが、保晋、晋北をその最も重要なものとし、現在蒙疆自治政府の管理に歸し、滿鐵が委任を受けて、撫順炭礦の技術を入れ採掘をなし奥中その販賣權を握つてゐる。

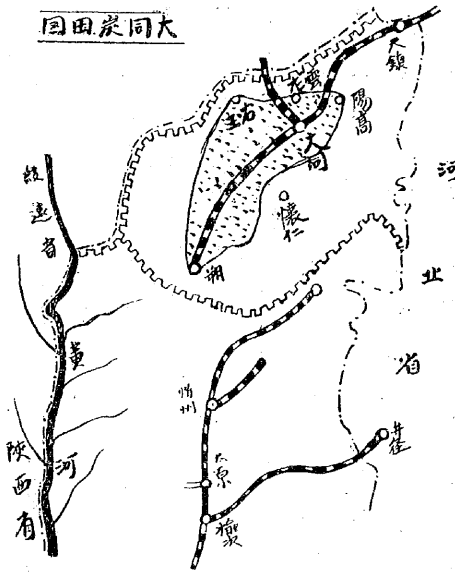
記者が特に 見學させて貰つたのは、晋北公司に屬する永定莊礦區である。同礦區は全炭田の中最良の炭層を有するものであり、炭層七層を擁してゐるが現在第一層と二層を稼行中で深度第一層七十五米、第二層百三十米の淺さで層厚各一米七、及び二米、七に及んでゐる。山西の數千に達する中小炭礦が殆んど原始的工法により能率低き出炭をなしつゝあるに保晋、晋北の各炭礦のみは比較的近代採炭法により現在支那人經營時代の採掘後の整理的採炭をなしつゝあるに拘らず一日出炭永定莊一千噸、煤峽に七五〇噸、保晋六五〇噸平均に達してゐる。だがその埋藏量より見る時それは實に九牛の一毛にも比すべきもので河北が埋藏量に於いて山西に比肩すべくも

ないのに（三十億）開採の五百二十萬噸、井徑の六十二萬噸出炭を見せつゝあることに想到すれば、いかにこの開發が遅れてゐるかを知るべきであると同時に反面に於いて將來一大飛躍をなすべき素地を有するかを想像し得るのである。既に現在の能力に於いても年間百萬噸出炭は可能であり、滿鐵の計畫によれば來年度より二百萬噸を豫定してゐることである。

本炭田の特徴はその埋藏量の莫大に加ふるに各種の採掘條件が稀有なる有利にあることである。現在稼行中の第一、第二炭層共完全に無瓦斯であつて、坑内に於いて裸火を點し、ストーブをたいてゐる、而も出水殆んどなく、揚水設備の如きまことに小規模にて、足りてゐる。更に天盤に至つては頗る堅固なるものにて坑内殆んど全部支柱の要なく、作業過程を非常に容易にしてゐる。

かゝる有利な條件を擁しつゝ、而も出炭がその條件に比して大ならざるは、その技術が近代的なりとは言へ、なほ發達の初期の段階を多く出でざる事に起因してゐる。第一炭層に於いては前進式残柱長壁式、第二層にては柱房式の採炭方法を取りつゝあるが切羽に於ける掘進は全く手掘の域を脱せずドリル、カッターの使用はその必要を認められつゝも、一ヶ所すらの使用もない、捲揚機も最近永定莊第一號、二號壁坑に百二十馬力を二臺設置されたがエンドレス設備な

く坑道が傾斜三度乃至五度位の緩傾斜である爲、空車の返しに途中
屢々停滞するが如き現象を呈してゐる。結局自然的條件の驚異的有
利さに對應する技術的條件の不備が本炭田の開発に當つて最も急を
要する解決問題となつてゐるものであるが、その根本的對策は動力



設備の完成にあるもの、様である。而も將來の大開發を豫想する時
こゝに於ける規模大なる自家發電の可能性は充分に存在するものこ
言ふべきであらう。

本炭鑛に於ける鑛夫數は、永定莊、煤峽口、保晋を合して三千二

施設を向上せしむる事によつて、稼働能率を幾倍かに引上げる事が
可能であると言つてゐた。

現在大同附近の治安は一應安定してゐる。稼働者の間に何等動搖
なきは勿論であるが、殘敵或は匪賊の害も決して警戒の手を緩むる
ことは出来ないにしても大なる危険は豫想されない。かくて大同の
炭田は今や大開發の緒に就かうとしてゐる。長期戰體制下に於ける
日本は日滿支經濟の結合によつて昭和十八年度に於いて大同炭の移
入一千萬噸を必要とする状態にある、而も本炭田の將來の推定可能
出炭量は正に三千萬噸に達すると言はれてゐる、まことに膨大な
數字と言ふべきである。

ただ此處に最も問題となるのは、その輸送設備である。現在京綏
線の能力はマキシマムにて年間三百萬噸である、今此の線を基準に
して輸送設備の大擴張が計畫されつゝあるもの、様であるが、太湖
の港灣大改築と共に十億萬圓に達する膨大な計畫である。北支開發會
社の成立と同時に子會社の交通會社が設立されその資本によつてそ
の實現の一步が踏み出されること見られてゐる。だが、その交通會社
が滿鐵の進出の形を採つて現はるゝや、それとも他の新しき資本に
俟つものなりやは、なほ我々の窮知り得ない所であり、最高機關に
於いても確定的意見の決定を見ないこと推知り得るものがある。

百人内外を上下し、殆んど全部が附近の土着農民によつて占められ
てゐる。その賃銀は一日五十六錢より四十六錢の低位にあり、而も
全部常備制度にも不拘頗る僅勉柔順にして就業歩合の如きも平時七
五、六分に達し、探炭夫一人當り出炭額〇、八噸も現在の技術、設
備にあつては良好なりと見られ、訓練の結果は一週半までの向上可
能なりとされてゐる。概して言ふ時土着農民は山東苦力に比し能率
優秀である。作業は三番交代である。常備制度にて通勤であるが故
内地に於けるが如き宿舍設備はなく、従つて飯場制度或ひはそれ等
に類似したもの、存在もない。たゞ作業統制上の必要より大監工、
小監工、工頭の制度を設け、一工頭に十五人の稼働者を配屬せしめ
技術及び風紀の指導監督に當らしめてゐる。内地に於ける組長乃至
は班長に相當するものである。この常備及工頭制度は國民政府時代
よりの繼續で、此の點頗る進歩的と言ふべきである。

福利施設として醫院、學校、鑛夫消費合作社、圖書館、俱樂部、
協會會、儲蓄部等もあると立り立て、言ふべき程のものでない、ただ
内地にて想像するが如く北支の奥地に於いて奴隸的勞働が強行され
つゝ、ありその豫想を以つて臨む時、この比較的進歩せる制度と施設
は一個の驚異であるかも知れぬ。而も彼等の待遇は決して充分な
ものではない、現に或る有力なる職員の一人は賃銀その他の諸給與、

これら一般的根本的方針の未確定といふことは北支産業全般を通
する一つの特徴である。大同炭鑛の如き、蒙疆自治聯合委員會の手
に接收され滿鐵の委任經營に在るとは言へ、それは眞に過渡的狀態
のものであり、今後如何なる資本の手に歸屬するや全く暗中摸索と
言ふべきである。これは内地の旺盛な進出意欲を阻む最大の障害と
なつてゐる。急速を要する資源開發に就いてその根本方針確立要望
の聲は記者の短時日の北支滞在中最も強く耳を打つものである。

龍烟鐵鑛開發の緒につく

山西省が石炭の寶庫とすれば察哈爾省は鐵の貯藏地と言ふべきで
ある。元來支那に於ける鐵鑛資源は貧弱であつて、支那地質調査所
の計算によれば、滿洲國及び支那の重要鐵鑛埋藏量は大約十億トン
世界鐵鑛量に對するときは僅かに千分の六、其の内四分の三は滿洲
に屬し其の四分の一は大部分北五省にある。その量現在迄の調査に
ては一億四千萬トンで察哈爾が、七〇%近くの九千一百萬噸を藏し
てゐる、その世界對比及び石炭、鹽等の膨大な量を見る時、確に貧
弱なりと言ふことが出来るが、重工業の飛躍的發展を要請されてお
ながら、その鐵資源皆無の状態にある日本にとりて察哈爾の鐵は實
に、當面並に將來に亘つて、決定的重要性を持つものである。

龍烟鐵礦はこの殆んど全部を占むるもので、涿鹿、宣化、龍關の三縣に跨り延々として赤鐵礦の大礦脈が地表近く、或る箇所では巨大な露出を見せつゝ、横たはつてゐるのである、鑛石は前石炭期の生成に屬し『宣龍型』と稱せらるゝ、魚印狀及び腎狀結晶をなせる頗る稀有なもので、平均鐵分五〇%一五六%に達し極めて良好と言ひ難いが鞍山の四〇%平均、最近注目をひきつゝある茂山の四四、五%に比すれば遙かに上位にある。ただ硅素分の含有多きを缺點とし、本年初め、日鐵八幡製鐵所への第一回移入分が豫想に反し好評でなかつたのもこれに原因する様だが、處理法の發達と共に解決さるべきで決定的障害たるものではあり得ない。

註 八幡製鐵所の非難は硅素の含有と共に品質の低いことが擧げられてゐたが、品位そのものは前記の通りで製鐵所の規格には多少劣る點ありましても、現下の鐵飢饉に際してはこの程度のものであれば、非議すべき節合のものに非ずは現地に於ける意見である尤も第一面搬出の分は興中公司が操業着手當時、民國時代より貯積されたる約六萬噸の中約六百噸を殆んど選鑛を加へず、品位の區々なるまゝに積出したことにも依るもの、様である。

龍烟鐵礦なるものは前記三縣に亘る地域を鑛區とする宣化東方の烟筒山、龍關の探鑛所を指したものであり、民國七年世界大戰當時

俟つて現場のみならず、高級指導機關にあるものをして、暗中模索の感を抱かしめてゐる點があることは否み難い。さりとは言へ、この開發は否應なく進められつゝある、興中公司の技術者、事務員百名近くの下に現在稼働者は探鑛、運搬に直營苦力一、〇〇〇を土着農民の間より募集して完全に無經驗なりしものを訓練しつゝ、使役し一方約六百人の請負ひ苦力をして土土剥ぎを續行せしめてゐるが、山腹に巨大な露出を見せてゐる赤鐵礦の脈を破産作業によつて探鑛しつゝある様はいづれにするも壯大なる景觀である。

籌備所の計畫によれば現在使役中の土着農民中より漸次淘汰を行ひ、訓練を加へつゝ、純粹の職業的鑛山夫を作り上げると共に坑内掘りを開始して一人當り探鑛能率一噸半までに昂上せしむるの事である。彼等の賃銀は現在四十錢平均である。

まされ龍烟鐵礦は今開發の緒に就きつゝ、内地の鐵飢饉解消に大きな役割を演ぜんとしてゐるが、その埋藏量は單に内地の需要を充すに足るのみならず、日滿支經濟プロックの遠く廣き將來への見透しの下に立つ時、必然山西の石炭と結合、現地に於ける重工業勃興の基礎的動力をなすものであることが想定される、既に石景山製鐵所の修理、回復が進展しつゝあることその一端を物語るものであらう。

の鐵價の暴騰に刺戟されて段祺瑞、陸宗昌等の大官連が龍烟鐵礦公司を設立したるに淵源する同公司是資本金五百萬元の官民合辦會社で宣化より山元まで九軒の專用鐵道を敷設しペキン郊外の石景山に製鐵所を設け年産八萬噸を産出する計畫をたて殆んど之が竣工し探鑛十萬噸に及たる時大戰の終了にあひ、鐵價の暴落に見舞はれて遂に停止のやむなきに至り、今次事變により興中公司の手に接受さるゝまで約二十年間、中間二三の經緯あつたもの、無操業のまゝ、放置せられてゐたものである。

興中公司是接收と同時に取敢ず張家口支社の下に龍烟鐵礦籌備所なる本格的操業に至るまでの準備的機關を設立、烟筒山に於ける探鑛、探鑛を開始し、昨年十二月二十日第一回運鑛をなした。當時殆んど何等の設備なく運搬レールのみが存在してゐた状態に過ぎなかつたのを、危険を冒して探鑛夫の募集、機器の整備に努め今日、免に角日産五百噸の探鑛を可能ならしむるに至つたのである。興中公司の計畫は五六月頃までに日産六百噸、動力配給をなすと共に年産五〇萬噸を目標とし諸設備を進めてゐるが、水利にめぐまれざる事は發電計畫に一抹の暗影を投げかけ、また機器類の調達困難計畫の進捗を阻む要素なる懼もある様である、是等は實に北支一般の産業開發方針の具體化が遅れてゐる事々相

貝島炭礦井陘炭礦活躍に

河北省は北支五省中各種地下資源の存在に豊富なるものと見られてゐる。鐵、金、銅、鉛、亜鉛の金屬礦物及び石炭、磁土、石棉、石鹽、鹽、硝石、曹達等、未だその埋藏量も明かならず、開發の緒にすら就いてゐないものもあるが、長蘆鹽の名を以つて知られる海鹽、開平、宛平、房山、井陘、陽城、磁縣、曲陽等の諸縣に埋れる石炭は河北富源の主要部分をなすものである。

河北に於ける石炭埋藏量は支那地質調査所計算によれば三十億七千一百万噸で五省中第二に位し山西の千二百七十億餘には比肩すべくもないが、出炭量に至つては一九三一年調査に於いて七百六十六萬噸に及び北支のみならず、全支の王座を占め、その全出炭額のほぼ四〇%に上つてゐる。河北の石炭鑛業の現時及び將來に於ける重要性推して知るべきであるが、その諸炭田の中開鑛を除けば井陘を以つて最なるものとす。

井陘炭礦は河北の北西、山西省との境界附近に二億五千萬噸の埋藏量を有する炭田に掘り進められつゝあるものであつて、京漢線石家莊驛より汽車にて二時間里程の箇所在する。この間の鐵道は、事變以後尙常態に歸らず、軍の許可の下に貨物列車に便乗する便あ

るだけである。

光緒二十四年ドイツ人ハンネッケンと支那政府との合辦（出資額二十五萬兩宛、五十萬兩）にて井陘礦務局を開設したのに本炭礦の歴史は始まる世界大戦後ドイツ人が歸國したので支那に接收してつたが、技術其の他の點より支那獨力の經營が結果かんばしからず民國十一年更にドイツ商人と再契約を結び、河北省政府とドイツ商人との共同經營となつた、出資額は前者資本金の四分ノ三、三百三十七萬元、後者四分ノ一、百十二萬元であつた。而るに民國二十四年（昭和十年）に至り、數年前來よりの炭價暴落及び事務關係の缺陷から再び營業不振に陥り遂に河北省礦業管理委員會の管理下に置かれ今回の事變にまで至つた。

事變以後昨年十月初旬日本軍の占領するところとなり獨人の持株は興中公司が百四十五萬元で肩代りし目下は軍の管理に歸し興中が過渡的經營の主體となつてゐる。軍に接收と同時に探炭の復活繼續が、急速な必要によつて要望され、興中の手を通じて内地炭礦業者の進出が懇願せられたのであつたが、治安未だ確立せず事變の前途も充分な見透しつかぬ當時にあつてそれは一般内地炭礦業者にとつては、探算のよつて立つべき基礎不明な一個の冒險であり、非常な勇氣と、大局に對する達識を必要としたために殆んどこの業者が逡巡を

るが探掘には一ヶ所のみを使用し、探炭能力は稼働者三千五百人を使役して日産二千噸は裕に可能である。

勞働者は北支炭礦の一特徴をなす、土着農民の出稼が主であり常備二千八、請負者による供給千五百に達する、事變前には合計四千五百人より五千八人位を使役しつゝあつたが、現在にても必要とあらばなほ數倍の人員を募集し得る、彼等の生活は極めて簡素で一日平均十五錢位の生活費で、賃銀五十錢内外を得つゝあるが、炭礦附近の農村は他に比して富裕なりと言はれてゐる。福利施設の如きも、宿舍等の設備をする必要がないが、前經營者時代より小學校、醫局消費組合等の施設をなして來て居る。

探炭技術は支那一般の事情として内地に比すれば問題たり得ないが、主として勞働力の價格低廉の爲に機械化進まざるに起因するものであり、生産コストは却つて低位にあると言ひ得やう。

事變以後、輸送機能が停滯して予ひ現在貯炭七萬五千噸を算し探炭も從つて手控へなければならぬ状態にあつたが、四月二十三日始めて石家莊に三百噸の送出をなし、山元大いに活氣づき今後の順調な進捗を期待してゐる、滿鐵の計畫によれば、本年度中に井陘、石家莊間を廣軌に改良するとの事であるから、その曉には探炭も漸次フルの能力を發揮し得る様になるであらう現在日産二百

重れてゐた際、これを買つて出たのは九州の貝島炭礦株式會社であつた。征戰以來既に十ヶ月北支に於ける石炭開發は殆んど興中に非ざれば滿鐵に限られてゐる現在に於いて内地業者が實際に開發の第一歩を踏み出したのは貝島に始まり、また未だ貝島に止まる

今井陘には貝島重役草場義夫氏を礦長として十五名の社員が興中公司の囑託として、前後數回に及ぶ匪賊の襲撃に屈せず一面炭礦技術者として、一面警備隊の任務を果しつゝ、多難な開發の手を進めつゝあるが優秀なその技術は短時日の間に生産能力を奮に返し、一路進展の方向に突き進んでゐる。以下は草場坑長を煩はして知り得たる井陘炭礦の概要である。

本炭礦は幸にして、戦禍を蒙ることが、山東の諸地方に比し少なかつたが事務所其他は相當荒され、現在鑿撃が繰り返へされ、數十回の内、警備隊兵に死者を出し掠奪をも受けた事も再三である然し我々も國策の線に沿ふ者として充分な覺悟で事に當つてゐる本炭礦の石炭系の地層は石炭二疊組に屬し可採炭層六あり、層厚は、第一層三呎、第二層七呎、第三層一五呎、第四層六呎、第五層二十四呎、第六層一・六呎である炭質は優良有煙炭で該炭製造に適し、灰分少なく一二%内外で水選、選炭の必要は殆んどなく掘出した儘を炭送し得る状態である。現在堅坑四ヶ所を有してゐ

五十噸平均。

販賣區域は、天津、北京の兩市及び、北寧、京漢、正大の沿線各地と地元燃料用

山西省が膨大なる埋藏量を擁しながら、大同炭及び大原炭が開發未だ意の如くならず、加ふるに輸送設備の大改良、大擴張を必要とし當面急速の需要に應じ得ざる時、既存設備にて僅に七十萬噸の出炭力を有し、輸送亦比較的有利な地位にある井陘炭礦の當面的價値は充分に評價されるべきである。勿論急激に累増する内地の石炭需要に對して、直接有力な供給源とはなり得ないだらうが、この率先的開發と、それに相應する輸送設備の一層の整備は河北全炭田のみならず山西炭の開發、輸送の促成に顯著な刺激と經驗を提供し北支全體の石炭礦業に對する有意義なモメントとなることは明らかであり、内地技術の計畫的移入の嚆矢としてまた資本進出に多くの暗示を與へつゝあるものとして、此の炭礦の持つ意義は大である。たゞこゝに於いても繰返さればならぬ事は、北支開發の具體的方針が急速に而も最も有效な形態の中に決定される事である。今こゝにそれに見ることも、若し一方的偏倚的なものである限り、再び新しく發足をやり直さねばならぬ様な事となるだらう事を附言して置く。

井陘炭の骸炭工場

井陘炭が骸炭原料として優良であることは前記の通りであるが、井陘礦務局は民國元年これを企業化せんとして石家莊に煉焦爐一座を創設し同五年之が開工をなして煉焦廠と稱した。その後世界大戰の爲一時中止したが民國十四年復舊、十六年に再び中止した後十七年復工して事變まで繼續した。事變の後、井陘炭礦と共に軍の占領する所となり、興中に肩替りした事は前記の如くである。

該煉焦爐は當初小型のO型、發熱式二十基を備へ、各爐の骸炭産額二種六、入爐炭三種六、煉焦時間三十時間である、民國十九年大爐十基を増設したが之れは、Hilselman 著熱式で各基入爐炭八種で六種の骸炭生産能力を有する、煉焦時間は二十四時間、合計一日の最大能力は百二十種であるが、現在大爐は故障修繕中であり小爐は何時にても操業可能なるも山元よりの送炭中絶のため休止し待機の状態にある。

製造過程中、煉焦中に生じた揮發物は煙管に導かれて各種集器に集まり其の含有する副産物を補集し殘餘のガスは煉焦爐に回入し骸骨製造の發熱用に供するが如き組織になつてゐる。骸炭以外の副産物は、ベンゾール、硬瀝青、ナフタリン、コールタール、アマモニ

ヤ水、硬瀝青樟腦溶劑紅油等である

こゝに使用の職工、職員は獨逸人技師長を除いては全部支那人であり總員五百人に及び工場内住宅を設け、兒童のためには小學校を建て、一切の生活が構内にて一應立ち行様に設備されてゐる炭礦に於けると同様支那にては特異な進歩した待遇である。従業員は非常に親日的で事變に當つては最も早くまた最もよく日本軍と聯絡しその爲に活動して工場如きいさゝかの被害もなかつたとの事である。

山東省石炭業の近況

山東省は日本の國防上重大な意義を持ち、對支政策の據點として貿易、産業上の進出と共に確固たる國策樹立を必要とする特殊の地域である、従つて此の省に於ける地下資源の開発は北支各省の中にあつても特殊の意義を持つものでなければならぬ。

山東省の地下資源は、鐵、銅、金銀、鉛等が擧げられるが省内唯一の採掘鑛山金嶺鎮を中心とする。益都並に費縣地方に於いて埋藏量一千四百三十萬噸と推定さる、鐵資源及び淄川、濰山附近に存在する礬土頁岩を除けば他は尙現在殆んど見るべきものがなく、その中にあつて石炭は群を抜いてゐると言ふことが出来やう。

山東省の炭田は、膠濟沿線の淄川、博山坊子、南定、章邱、津浦沿線の昌縣、大沙口、新泰、沂州濰縣等に散在しその埋藏量二十一億一千七百萬噸（青島商工會議所山東事情所載）と見られてゐる。その内譯は左の如し、

炭田別	埋藏量	可採炭量	炭田別	埋藏量	可採炭量
淄川	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	昌學	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
博山	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	大紋口	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
坊子	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	新泰	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
南定	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	顏莊	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
章邱	四〇、〇〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇	沂州	五、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

主要炭礦の民國二十四年度に於ける出炭額は（單位噸）

魯大公司淄川礦	五、四、〇〇〇	章邱煤田	一、二〇、〇〇〇
同 維縣礦	一、三、〇〇〇	寧陽磁寶	六〇、〇〇〇
淄博煤田	一、五、六、〇〇	其他	八〇、〇〇〇
中興煤田（濰縣）	一、一、〇〇〇、〇〇〇	合計	三、八、八、〇〇〇

右諸炭田の中目下操業中のものは大紋口の華豐のみであり、膠濟沿線の淄川、博山、章邱等は日本資本の關與せる限り、盡く破壊されてゐて、現状殆んど語るべきものが見ないが、大部分は軍の接收に歸し、興中公司への委任經營の下に東和公司の技術によつて、復舊が急がれつゝある。

從來山東の石炭は、青島、濟南等の膠濟沿線及び上海の發電事業内地瓦斯業者をその主要販路として來てゐたのであるが、事變以來

北支全省の採炭殆んど停止されたるを、最近に於いては、河北省開灤炭礦の月餘に及ぶ勞働爭議の影響をも受けて、この地域の炭價の騰貴極めて顯著なものがあり、濟南地方に於いては、切込炭三〇圓コークス六〇圓を唱へる實情にあり、出炭の増加は當面の必要としても急速な實現を要請されてゐる。

然るに山西、河北の事情にも増して山東の石炭礦業回復は困難である。その最大の原因は勿論、前述の如く、主要炭田の破壊甚だしき事にあるが、なほ本省に於ける治安關係が北支他省に比して最も不良であり、従つて輸送關係の復舊遅々なるものもあり、（膠濟線は最近營業開始せるも、遲着、延發甚だしく且つ日に一回程度である津浦線はなほ濟南以南は軍用のみである）たゞへ、出炭可能とするも送炭の途なく、更に出炭そのものすら、現在大紋口の華豐、華寶の兩礦が日産一千噸程度に擴張し得る條件を有しながら諸機器類の入手至難のため、擴張を手控へさせられてゐる事に起因してゐる。いづれにするも、山東の石炭もまた北支開發方針の具體化による、資本及び技術の急速な導入と、治安の確立を要望してゐる。

山東南端の濰縣中興煤礦は事變前約二百三十萬噸の出炭を見せつゝあつたが、事變以來一時操業を停止し、三月二十四日、日本軍の手に接收され爾來東和公司より技術者を入れて排水作業等に復舊を急ぎつゝあるから近く或る程度の出炭を見るに至る模様である（終り）

滿支炭が存分使へるのは 何時か

關西共火 北谷與一氏談

◇曩ころ石炭聯では十三年度の石炭需給量を五千百萬噸と前年度より七百萬噸も増加した數を發表したが現在の景氣の儘で行けば十七年度には七千九百萬噸、二十年度には一億五千二百萬噸（伍堂氏は九千四百萬噸といふ）なる膨大な數字となる。

◇十七年度の七千九百萬噸といふ數字の中には石炭液化用の一千萬噸が算入されてゐるが、この數字の需要増加は今日から見ても想像し得る。

◇ところで一方供給の問題だが、内地的に見れば九、北、樺によらなければならぬが、その供給數量は大體何の位

で、又増産率は何の程度に行くであらうか更に増産が出来ても配給、積出等が完全に行くだらうか、内地炭の輸送に對して貨車の配給を如何にするか、等々問題があるが、何れにしても大きな供給増加は望めないと思はれる、結論は滿洲炭、北支炭等に依存するより外に手はない。

◇ところが滿洲炭で胡蘆島の修築出来るのが十五年度になり滿洲北票等の増産計畫は千五百萬噸とか二千萬噸とかいつてゐるがこの膨大な數字が果して實行出来るだらうか山元で採掘が豫定通りに行つても輸送關係が何うなるだらうか。

◇今の内地の貨車製造業者が注文を受けてゐるのは十七年度迄で滿鐵の本線、支線北支線は年度別で稍完了するのが十七年度である。

◇そうしたことから想像するなれば昭和十七年度迄は今の様な窮乏な思ひを續けて行かねばならないことになり之は

大いに考究を要する問題である。

◇供給に就ては前述の様に主として問題は貨車にあつて、船腹は何うにかなる、北支の井陘炭等は増産の聲を大にしてゐるが内地へ来るのは急なことには行かぬらしい要は滿炭がこれを何の程度まで解決して來れるかといふにある、尤も軍需景氣が轉向すれば別であるが……

◇九州炭が増産計畫をしてはゐるが、サテ實行となると機械が間に合はぬ、輸送が出来ないといふ様に種々な支障が起つて來るので、今日としては昭和石炭が内地炭の九、北のみを統制してゐる時代でなく、もつと機構を大きくして行く必要があると思ふ。

◇滿洲炭礦の豫定計畫が段々遅れてゐる様だが、これは事業經營者に何か手落があるのではないか、何うもそう思はれてならない。

◇將來この多難な日本の石炭經營を掌る人物は、大陸から日本を大きい眼をもつて見る様な人が是非欲しいと思ふ。

◇日本が滿洲國を承認し又滿洲炭礦が創設されて以來相當の期間が經つのに未だ充分内地でその石炭が使へぬ様な事

から考へると、北支の石炭もそんな事になるのではなからうかといふ杞憂を持つてゐるが、そうしたことのない様に一日も早く開發をして欲しいものだ滿炭や北支炭が存分に使へる様になるのは果して何時であらうか、待ち遠いことである。



勞資調整の指導精神

勞資協調會が決定

戰時戦後の勞資關係の重大性にかんがみ協調會を中心として去る二月に時局對策委員會の誕生を見、傷痍軍人對策勞資關係その他重要産業勞働政策、勞働力需給調整、勞働力保護政策、銃後の社會施設、思想對策等の審議項目のうち傷痍軍人對策、勞資關係調整方策の二項目を審議決定したので協調會ではこれを政府に建議すべく準備中であつたが今回成案を得るに至り協調會々長徳川家達公より首相、厚相、文相、内相、陸相、海相、商相、企畫院總裁、傷兵機護院總裁等に對し正式建議することに決定した、なほ協調會においては勞資關係調整の完璧を期するため目下中央保關設立の準備を進めつゝあるのであるその發展、促進のため協力方を要望する筈である、建議文の内容は大體時局對策委員會決定案の通りであるが勞資關係調整方策に關するものは左の如くで時局柄各方面より頗る重視されてゐる。

勞資關係の指導精神の確立

▲勞資關係の指導精神

産業は事業者各自の職分によつて結ばれた有機的組織體であり、而も産業究極の使命は産業の發展によつて國民厚生を圖り、以て皇國の興隆、人類の文化に貢獻することである、斯かる使命の達成に當つては兩者は正に一體とならねばならぬ即ち事業者は經營に關する一切の責に任じて従業員は福祉を圖り従業員は産業の發展に協力し事業一家族親和の精神を昂揚し以て國家奉仕の爲に各々自己の職分を全うしなければならぬのである

▲事業者の經營精神

事業者は先づ第一に産業の國家的使命を體得し産業報國の精神に基いてその經營に當らねばならぬ、事業は單に自家の利殖又は幸福の爲にのみ存するものでなく更に進んで皇國發展に存在してゐるのである同時に事業が重大なる社會的使命を有する所以のもの

は多數の従業員を使用するがためである、すなはち事業者は謂はゞ従業員の父となつてその個人的乃至社會的生活を保護指導すべき責務を有するのである單に従業員の經濟的方面のみならず進んでその文化的精神的方面の向上に努め日本國民たるに相應しき教育訓練を授けなければならぬのである

▲従業員の勤勞精神

従業員は先づ勤勞の神聖なることを自覺し勤勞報國の精神に基いて精勵努力しなければならぬ即ち勤勞は單に自己の生活の爲にのみされるのではなく更に進んで皇國の興隆に貢獻せんが爲になされるのである、従業員は須らく産業人としての自己の職分を自覺し規律を嚴守し技術を練磨し智徳を昂め以て事業の發展に協力しなければならぬのである

勞資關係の指導精神を普及 及宣揚する諸方策

一、各事業内に右の指導精神を普及徹底する爲の 機關を設けること

(イ) この機關は事業者及従業員の意思疎通を圖るのみならず、この機關を通じて産業の發展、従業員の福祉を齎すべき各種の施設を行ふこと(例へば待遇改善、能率増進、保健衛生、福利共濟、教育修養、慰安娯樂等)

(ロ) 既存の機關例へば健康保險組合、共濟會、安全委員會、工場委員會等を有する事業場に於ては此等の機關を利用し漸次完璧を期すること

(ハ) 新機關の委員の構成、事業の内容、權限等に就ては産業の種類地方的事情、規模の大小等に依り一律に論じ難いから個々の場合に應じて適宜の方法を講ずること

二、文部當局と協力し學校教育の中に、本精神の 普及を圖る方法を講ずること

(イ) 小學校、中學校の教科書に『産業と國家』及『勤勞と國家』の如き章を設け若き時代から産業報國、勤勞報國の精神を涵養すること

(ロ) 大學、専門學校の講座に『産業概論』『勞務管理』『厚生政策』の如きものを設けてこの精神を普及すること、殊に技術系統の學校に於て斯る方面の教育を施すことは各方面からの要望である

(ハ) 會社工場等の勤勞方面に就職希望の學校卒業生に對しては適當なる機關に依つて一定の期間産業勞務に關する教育を施し産業經營の指導精神を體得せしむること

三、産業に關する全國的祭典を行ふこと

日本の産業精神を作興するため紀元節又は適當の日を選んで産業祭を行ふこと

四、雇傭關係を規制した法律(工場法、鑛業法、商店法等)の巻頭に産業の指導精神を掲げて當該法文を一貫する指導原理を明示すること、或は産業告諭を發すること

五、右の指導精神を就業規則及び勞働手帳の冒頭に掲げること、社是を有するものはこの際右の指導精神に徴して社是を吟味し就業規則又は勞働手帳の冒頭に掲げること

六、右の指導精神及徹底に當つては事業者及勞働者團體の協力は素より特に政府及地方官憲の協力に依り舉國一致の國民運動として發展すること

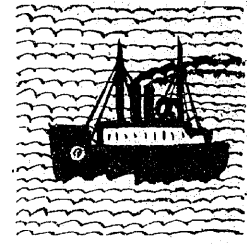
七、右の指導精神を宣揚し勞資關係を調整し以て厚生政策の完璧を期するため有力なる一大中央機關を設置すること

(イ) 中央機關は事業者従業員に對して物心兩面から啓蒙運動を行ひ、教育福利運動に關する指導の任に當ること

(ロ) 中央機關は産業勞働關係の諸團體、保險銀行等の資本諸團體社會教化團體等を以て組織すること

(ハ) 中央機關の最高諮問機關として審議會を設け且つ専門家を網羅して専門委員會を設置すること

(ニ) 中央機關は政府當局及地方廳と緊密なる連繫を保ち、官民一致所期の目的を貫徹するやう努力すること



石炭船運賃

一、汽船運賃

イ、遠洋

各方面共相變らず不振大勢好轉の期待薄と見られてゐる従つて本邦船の出稼ぎ配船は當分不可能で結局、本邦中心の航路に定期的配船が最小限度を以て辛じて維持される程度に過ぎない。更に爲替管理の影響を受け寛荷は全面的に減退加へて市況の軟化は一層配船困難を惹起するのではないかといはれてゐる。此空氣は早くも近海に波及してゐるので益々警戒の態度をとらんとしてゐる。英國不定期船主から申出のあつた共同繋船プール案は本邦側は參加を拒絶したが、歐洲に於て如何に落付くか興味

を惹いてゐるが、假に實行されるとしても深刻なる爲め之が不況克服は容易でなく世界の貿易が恢復しない限りその打開は困難であらう。

ロ、近海

遠洋の不況は當分打開は望めないし一方新造船は相次ぎ竣工就航を見つゝあるので、近海船腹は今後尙引續き増勢を辿るものと豫想されてゐる。尤も石炭を始め北洋材礦石、その他軍需原料貨物の出廻り旺盛を期待されてゐるから、夏場に於ける船腹の消化上特別の異狀を來す虞れはあるまい運賃市況も弱含みながら大体に保合つてゐるものゝ今後の動きに對しては極めて注目を要する譯で

ある。

八、石炭

九州、北海道炭共出廻り輻輳し船腹需要旺盛ではあるが警戒気分が強いため運賃に伸力なく、若松は依然荷役能率低下してゐて沖待滞船を餘儀なくされてゐるので下押の動きもなく保合商状を續け若松―京濱五圓乃至五圓一二十錢、若松―伊勢四圓七、八十錢處を唱へてゐる。日本海岸向は積出の荷役状態によつて動きはあるが大休若松―伏木四圓四、五十錢、若松―敦賀二圓六、七十錢見當を示してゐる。

最近の成約運賃は若松より

仕向地	今月中旬	前月同旬
京濱	五・〇〇	五・三〇
川崎	五・五〇	五・七、八〇
伊勢灣	四・七〇	四・八、九〇
大阪入	二・七〇	三・〇〇
敦賀	三・八〇	四・〇〇
仁川	三・一〇	三・二〇

(五月十五日迄海運特報ニ據ル)

二、帆船運賃

汽船運賃の低落と季節的影響で五月分協定運賃は前月に比し阪神四月分より十錢値下に決定した。これを前年同月に比較すれば大阪行で七十錢高である。尙機帆船は油の使用制限が實施される事になり影響甚大にして長距離を好まず従つて大阪の如き機帆船二割増の嚴守亦は幾分の割増しは止むを得ぬものと見られてゐる。協定運賃は次の通りである。

五月若松港協定運賃表

若松海運互親會

仕向地	運賃	前年同期	仕向地	運賃	前年同期
和歌山縣	三、元	三、四	和歌山	三、四	三、四
山良	三、元	三、四	大阪府	三、三	三、三
大阪府	三、三	三、三	樽井	三、三	三、三
和歌山縣	三、元	三、四	吉見	三、三	三、三

(單位一噸ニ付)

兵庫縣

佐野	三、五	三、五	岸和田	三、四	三、四
堺	三、三	三、元	大阪	三、七	三、五
尼ヶ崎	三、〇	三、五	西ノ宮	三、〇	三、五
神戸	三、〇	三、五	洲本	三、〇	三、三
明石	三、〇	三、三	江井ヶ島	三、〇	三、三
二見	三、九	三、三	別府	三、九	三、二
高砂	三、九	三、三	會根	三、九	三、七
木場	三、七	三、九	飾磨	三、七	三、九
網干	三、七	三、九	那波	三、七	三、九
相生	三、六	三、九	赤穂	三、六	三、九

岡山縣

片上	三、五	三、四	牛窓	三、六	三、九
鹿忍	三、六	三、九	岡山	三、七	三、九
岡山入	三、五	三、四	宮ノ浦	三、七	三、九
幸西	三、七	三、六	小野	三、六	三、九
彦崎	三、六	三、六	宇野	三、六	三、九
玉	三、五	三、七	日比	三、六	三、九
田ノ口	三、六	三、九	味野	三、六	三、九
玉島	三、五	三、九	笠岡	三、六	三、九

広島縣

福山	三、五	三、九	福山川入	三、七	三、九
----	-----	-----	------	-----	-----

山口縣

鞆	三、五	三、七	因ノ島	三、三	三、七
尾ノ道	三、三	三、七	糸崎	三、三	三、七
三原	三、三	三、七	竹原	三、三	三、七
阿賀	三、三	三、三	吳	三、三	三、三
廣島川入	三、三	三、三	宇品	三、三	三、三

香川縣

岩國	三、五	三、五	今津川入	三、〇	三、五
三田尻	三、七	三、〇			
徳島縣	三、八	三、三	小松島	三、七	三、三
徳島	三、八	三、三			
撫養	三、七	三、三			

愛媛縣

川ノ江	三、六	三、九	西條	三、五	三、七
新居濱	三、五	三、五	壬生川	三、六	三、九
今治	三、三	三、三	菊間	三、三	三、七
堀江	三、三	三、七	高濱	三、三	三、三

修正五ヶ年計畫

滿炭對日輸出難

内地における石炭不足の實情により滿洲炭の對日輸出は極めて重大な問題となつてゐるが、これにつき今後の情勢については悲觀的見解が有力となつてゐる、すなはち過般の炭業統制委員會においては本年度輸出量を對日二百廿四萬噸、對朝鮮六十一萬噸對海外三萬噸、計二百八十八萬噸と決定したが、今後は滿洲國における石炭需要は修正五ヶ年計畫における銑鐵四百五十萬噸、液體燃料百七十萬噸、電氣二百五十萬キロ（うち火力發電百三十萬キロ）その他に對する石炭手當を通計すれば極めて膨大なものあり五ヶ年計畫が順調に進捗を示すにおいては石炭の對日輸出は甚だ困難となるものが見られる。

しかし日本において最も要望の大なる製鐵用炭については本年度はコークス用炭として北票より二十萬噸、密山より二十萬噸、本溪湖より木鮮兼二浦へ七萬噸内地へ二萬噸を輸出するほか發生爐用炭として従來通り撫順炭およそ六十萬噸を輸出し豫定であるがこれについても今後の

輸出困難は同様である、たゞ發生爐用炭として最も優秀な撫順炭については日本においても必須のものとして要求してゐるのであるゆゑ苦心を拂つて對日輸出に努力するものと見られるまたコークス用炭としては密山が炭山製鐵事業地が甚だ遠隔で鐵道運賃と貨車繰の關係から滿洲國內における製鐵事業に使用することは困難で結局消費合理化の見地からもつばら對日輸出に振向けられるべく豊富な埋藏量から推して採掘と鐵道輸送に力を注ぎ將來二、三百萬噸の輸出可能となるものと見られてゐる（大朝）

標準相場引上

石炭更に躍騰か

工業方面の需要日々激増の傾向にあるにも拘はらず、供給難は益々深刻化し市價は躍進の歩調を呈したが、大阪石炭協會ではこの情勢に鑑み昨四日安治川沖渡標準相場を家庭用石炭一圓二十錢、其他一圓方（應當り）引上げる旨發表した、殊に家庭用石炭の引上げは宇部窒素の石炭處理能力の倍加で工場貯炭及び坑床貯炭の激減のため家

庭用石炭の大量吸收が行はれ市場出廻りが激減をみた結果と推測され目先より以上の品薄到來を懸念されてゐる、然し乍ら今回の値上げは早くより豫想せられてゐたゆゑ未だ急激な變動は現はれないが騰色相當濃きものがあるかにかゞはれる、因に新標準相場は左の如し（各一噸に付）

- 一般用塊炭特等二十五圓五十錢 同一等二十四圓五十錢、同二等二十三圓五十錢
- 同三等二十二圓、一般用粉炭特等二十四圓、同一等二十三圓、同二等二十二圓、同三等二十圓五十錢、原料粉炭特等三十二圓、同一等二十六圓五十錢、家庭用塊炭一等二十五圓二十錢、二等二十三圓五十錢（日刊工業）

北支石炭開發に

内地 調査團派遣

北支における石炭資源の開發は焦眉の急とされてゐるので今回いよいよ内地石炭業者も現地調査視察團を派遣することに決定、九日昭和石炭で打合せを行ふことになつた、右視察團は昭和石炭加盟各社から専門家二

、三名づゝ選出して一行廿余名とし團長には古田昭和石炭社長が推されてゐる

一行は今月末東京發、現地向ふ豫定だが、この調査團の成果は注目されてゐる

石炭調節に就き

商工省に強硬論

石炭の供給確保と圓滿なる配給統制の樹立とは全工業の原動力をなすものであるだけに凡ゆる緊要資材の中でも目下の最大急務とされて居り、關係當局に於ても調査對策をねりつゝあるが、これが前提として規格の統一と消費統制の徹底が我石炭需給状態の特殊性より先決問題であるとの説が最近とみに強化し近く具體的に結實を見んとしてゐる、こゝに消費統制一節約に關しては商工當局には左記客觀的諸情勢よりして配給統制問題とは別個に切り離しても缺く可らざる問題とする強硬論すらあり、漸次企劃、實施への軌道に乗りつゝあるから結局政府が目下大急ぎなつて宣傳、その勵行に努めてゐる國民運動の一題目として取上げられ、一大消費運動に迄發展するものに見られるに至つた

- 一、生産力の擴充、長期體制の強化と並行して需要は累増の一途にある
- 二、更に油の配給統制から石炭動力への轉行が續出し消費増加に一段の拍車を加へつゝある
- 三、反面、供給増加は之に伴はない、即ち（イ）勞働力はとも角として資材關係から内地に於ける急速なる増産も困難である（ロ）滿洲炭は船腹の不足、運賃コスト等の關係から殆ど期待出来ない（ハ）大同からの僅少を除いては支那からの輸入も同様望めない

しかして具體的方策とは商工省で従來研究されてゐた品種の合理的選擇、熱効率の増進、加熱設備、管理方法の改善、火夫の技術的訓練等は元より一般家庭に於ける消費に對する節約にまで入り例へば風呂を廢止して一般湯銭を奨励する等から延いては使用の制限禁止にも及ぶ必然性が感取される

なほ品種の規格統一に關しては既に各關係當局自らもこゝより鑛業聯合會、昭和石炭その他關係團體に對し調査研究を進めてゐる（日刊工業）

陥落地や鑛毒被害を

お歴々が視察

年間二千七百萬トン（二億八千萬圓）の黒ダイヤを掘出す石炭王國の陥落地（五千九百町歩）と鑛毒被害（千八百町歩）に對しては局部の補償が實施されてゐるばかりでこの補償の立法化を實現するため關係方面では知事會會長とする鑛業被害地整理期成會を結成し當局に猛運動を續けた結果、昨年十月商工省内に鑛業法改正委員會の組織を見たが、福岡鑛山監督局の案内で同委員の最初の現地視察が左の日程で行はれることとなり、地元ではこの視察により來議會にはいよいよ鑛業法改正案が提出され年來の願望が達成されるものと大きな期待をもつて一行を待ち受けてゐる

九日 午前十時十八分博多驛着來福、鑛山監督局訪問、午後一時自動車で福岡發、嘉穂郡二蓋町同穗波村秋松、飯塚市孤田、鞍手郡劍村、同植木町の陥落地を視察、直方一泊、十日 鞍手郡宮田町大ノ浦炭坑の土砂充填状況を視察、午後は炭坑業者と懇談後大牟田市へ向ひ同市泊り、十一日 三池炭坑關係市街地被害状況を

視察し福岡泊り ▲十二日 午前九時縣廳を訪問鑛業被害復舊整理期成會委員が陳情、午後福岡發、粕屋郡仲原村酒殿の陥落地を視て別府へ向ひ同市泊り
 【委員】 大森洪太(▲法省民事局長) 森山鏡一(内閣法制局第一部長) 佐野秀之助(東大教授) 我妻榮(同上) 平田慶吉(法學博士) 松本健次郎、朝比奈治郎(商工省鑛政課) (大毎)

小林俊治氏が 福富を開坑

福岡縣鞍手郡木屋瀬町小林俊治氏は今回嘉穂郡額田村鹿毛馬に福富鑛業所を經營すべく諸般の準備を進めてゐるが同鑛區は三十萬坪で埋藏炭は四尺三寸五寸二尺一尺の四層より成り極めて良質の石炭と云はれて居る、近かく主務省の認可を得次第掘鑿に着手するが現在は舊坑の整理、新坑開鑿の準備を進めて居る又石炭搬出のため四百間の専用道路を布設しトラック運搬を自由ならしめ本年内に月産二千四百噸の出炭計畫を立て、居るが將來一萬四五千噸を目標に設備を擴張の豫定で稼働者の社宅等も着々

建設され附近では作業開始を期待してゐる (門司新報)

鑛業報國運動 見事實を結ぶ

事變發生以來、勞力難、器機類の拂底、輸送機關の逼迫等未曾有の難關に達着し、増産行機みの状態にあつた炭界も漸く本年に入つて建直りの態勢を示し、遂に福鑛局管内本年三月に於ける出炭高は三百萬噸を超え、福鑛局始つて以來の増産を記録するに到つた、顧みれば昨年八月以來十二月迄の出炭は事變の深刻なる影響を受けて出炭遅々として伸ばす、前年同期に比し各月平均僅かに三・五%の増産をみたに過ぎなかつた、之を例年の各月平均前年同期比十%増に比すれば、著るべき増加率の低下であつた、然るに十三年に入つて一月は俄然七・六%二月は九%と躍進三月は前記の如き期動的數字を示現するに至つたもので(昨年三月の増産が著しかったため今年三月の前年比増加は三・九%)炭價の昂騰其他炭界の活況もさるべき乍ら、舊炭來西日本炭山に捲き起こされた官民一體血みどろの鑛業

報國運動の一大結實と目す可きである (福日)

炭聯及昭和 石炭調整協議

軍需工業を中心とする重工業部門一般の膨脹並に燃料消費統制實施に伴ふ代用燃料としての石炭需要は増々著増の一途を辿りつゝあり、これが國內需給の調整は刻下緊切の問題化しつゝあるが、殊に生産首都大阪においては中小工業をその中軸と成すだけに、斯業者の石炭飢饉は燃料消費規正と相俟つていよいよ深刻化し、既に大阪工業會商工會議所方面においてもこれが需關整策について具體方法を検討しつゝある、大阪府當局でも右情勢を顧慮し、土居前經濟部長在任中よりこれが對策につき善處方を政府當局に建言すべく經濟部工務、商務兩課において具體資料を蒐集、去る五日工務課三戸技師が右資料を携へて上京、在京中の池田知事と協力、陸海軍兩省、商工省、企劃院その他の方面と折衝の結果政府當局として、

一、石炭鑛業聯合會、昭和石炭會社等を通

じて石炭需給調整につき具體案樹立方を折衝中であり
 二、揮發油、重油消費規正により石炭を代用燃料として使用轉換する工場には優先的に石炭聯合會、昭和石炭等より配給を行はしめることに根本方針を決定せること
 三、さらに炭價昂騰趨勢が持續されつゝある折柄、近く石炭につき最高價格を設定し、強固なる配給統制を執行する意向をも有する

旨を明示するところあり、右政府當局の方針表明によりさかも燈料消費規正に伴ふ代用燃料としての石炭入手難に悩む中小業者の備みは近くある程度の解消をみることもなつたわけで、かつ石炭需給調整に對して政府當局が右のごとき強硬意向を表明したことは時局柄頗る注目し値ひする (日刊工業)

今年度の出炭高檢討 福鑛局で

商工省では石炭需給關係の逼迫によりこれが産業界に與へる打撃を恐れ石炭増産遂行

のため本年度及明年の出炭高について檢討を行ふことになり各地方鑛山監督局に於て管内の石炭山經營者を招致し協議を行ふことになつた福鑛局では本年十三日より一週間に亘り管内の七十五石炭山經營者を同局に招致し本省より松本鑛政課長出席し左の事項について協議することとなつた
 一、十三年、十四年の出炭豫想高
 二、坑内外主要運搬設備の概要
 三、採掘準備
 四、選炭設備の概要
 五、炭屬の賦存状況
 六、増産計畫遂行上困難なる事項
 七、その他諸事項 (九日)

十三都市小賣 四月は僅か騰貴

商工省發表 四月分十三都市小賣物價概況は左の通り
 全國平均 四月十六日現在の東京以下十三都市小賣物價指數(昭和四年十二月十六日現在の價格基準)は總平均一・一八・六で、前月に較べる一・一五%又前年四月に較べる一・三・九%の何れも騰貴で

ある、調査品目百品中(支那鶏卵及び青島牛肉報告なし)騰貴せるものは品薄に因る大根及材料高に因る機寸を始め五十六品で低落せるものは出廻増加に因る葱外十四品である(八印落、比較割合%)
 ◇五大分類別指數騰落割合

分類別	本月指數	前月比較	前年同月比較割合
建築材料	一五三・九	一・一八	一・一八
衣料品及身廻品	一六五・五	一・一八	一・一八
雜品	一六七・三	一・一八	一・一八
食料品	一七二・四	一・一八	一・一八
燃料	一七二・七	一・一八	一・一八
總平均	一七二・六	一・一五	一・一五
都市別平均			
都市別	本月指數	前月比較	前年同月比較
仙台	一五九・九	一・一六	一・一六
廣島	一五五・五	一・一六	一・一六
金澤	一三三・五	一・一七	一・一七
東京	一三九・二	一・一〇	一・一〇
京都	一三九・二	一・一四	一・一七
名古屋	一三九・七	一・一六	一・一七
小樽	一三六・六	一・一五	一・一六
横濱	一三三・三	一・一六	一・一八

高知	一七・二	一〇・八
神戶	二六・六	一七・七
新潟	二六・六	一八・一
福岡	二五・四	一八・七
大阪	二二・七	一三・〇
平均	二八・六	一五・三

(中外新聞)

地方鑛山監督局

機構改革案

商工省鑛山局では時局の波に躍る鑛山事業の指導、管理、重要鑛物増産法の運用及び國內資源の開發等戰時下に於ける鑛業政策を遂行するに當り地方鑛山監督局の現機構の改革を企圖し本月末開催せられる地方鑛山局鑛政課長會議に於て機構改革案を提出することとなつたが福鑛局榎本鑛政課長はこれが原案作成を三月末小金鑛山局長より依命せられた結果各關係者の意見を徴し左の如き機構改革案を立案するに至つた立案の内容は左の如し

總務部→統計、會計、庶務
 管理部→監督、勞務、調査
 指導部→産金、不足鑛物

即ち局長の下に總務、管理、指導の三部制を設け鑛業課を管理、指導の二部に昇格し鑛政課に屬した調査及び勞務を管理部に移し監督權遂行の圓滑を期する事となつた而して右改革立案の根本をなすものは從來不遇の地位にあつた技術官を優待し管理及び指導の二部長は技術官を以てし鑛山行政遂行の主體を技術官に置いた點にあるの注意を惹いてゐる

(日本鑛業)

貨車繰りに完璧

國鐵の送炭計畫

石炭の需給量激増に基く國鐵の輸送對策は石炭車の増備、積込みの機械化、設備の改良等となつてゐるが最重要視される貨車運用の合理化に就ては更に考究の餘地ありと見做して慎重協議の結果先づ本年度送炭計畫を左記の通り樹立しこれに對應して運用の完璧を期することになつた、これに依れば上半期送炭量は全體の四六・三パーセント、下半期五三・七パーセントとし昨年度に比較し前者一割七分四厘、後者一割五名平均一割六分五厘の増加となつてゐる

前年比較増		半期輸送割合(%)
△常盤炭		
上	半	〇・一五一
下	半	〇・一二五
計		〇・二三七
△筑豊		
上	半	〇・二三五
下	半	〇・一〇三
計		〇・一一九
△北海		
上	半	〇・二四八
下	半	〇・二五四
計		〇・四〇二
△山元		
上	半	〇・一七四
下	半	〇・一五五
計		〇・一六四
計		一・〇〇〇

(日刊工業)

北支鑛業開發の第一期の計畫

北支の鐵、石炭資源開發は北支開發會社の子會社として日支合辦中國法人の華北鐵鑛

設定を勸奨すること (中外新聞)

給料の日鐵納入

遂に契約成立

日鐵の本年度製鐵用コークス炭三百三万噸の手當については過般來日鐵、昭和石炭の出資會社たる三井、三菱、安川(明治鑛)古河、貝島、麻生、住友、東邦以上八社との間に納入數量ならびに値段に關し個別的に折衝を重ねた結果數量は各社の前年度線越炭や山元貯炭を動員し極力日鐵の希望數量まで供給することとなつたが不足する場合には日鐵の手によつて撫順ならびに開平炭を輸入することに契約成立した

なほ値段は各社の採算に相違があるため一律には決定し得ず結局前年度に比し隨當り最低四圓卅錢、最高四圓六十錢見當の値上げを行ふことになつた

しかして右は昭和石炭の本年度鐵道省納入炭一萬三圓卅錢上げ(互助會は一萬三圓五十錢上げ)に比し相當割高となるが日鐵にしても最近における石炭不足の状態に鑑み各社の要求に對し大讓歩を行ひやうやく成立を見たものである

(大毎)

及び華北探炭兩會社を設立し日滿兩國の開發増産計畫を照し合して夫々その綜合的開發を實行せしむる方針で、近く日華經濟協議會に付議し可及的速かに今後の具體的開發計畫の決定を急ぐ事となつた、而して現在滿洲國では東邊道の鐵鑛及び密山その他の石炭の本格的開發を計畫中なので北支の現地當局は大體左の如き開發方針を探り、北支鑛業開發の第一計畫としては大同炭の積極的増産搬出を圖るほかは準備工作に主力を注ぐ意向である、なほこの點に關し實情調査のため商工省より出張中であつた小金鑛山局長は北支及び蒙疆地方の視察を終り現地當局の意向を携へて廿八日朝北京出發大連經由歸京の途に就いた、北支鑛業開發方針は左の如くである

△鐵鑛 一、龍烟及び金嶺鎮其他の鐵鑛は華北鐵鑛會社を以て綜合的に開發せしむる

一、差當り内地向け鐵鑛材料の供給は華中鐵鑛會社の増産開發計畫に委ねる

一、北支では現地精練主義に依り華北鐵鑛會社として採鑛のみならず鉄鐵牛製品の生産をも行はしむる

一、このため石炭山製鐵所の擴張及び他の適當の箇所に年産百萬噸位の熔鑛爐の建設を計畫する

△石炭 一、濟道、井陘、中興、淄川其他の炭鑛開發は華北探炭會社をして綜合的に着手せしめる

一、大同炭の探炭搬出に就ては専用運輸施設を必要とするため特に特殊會社の設立を考慮する

△非鐵金屬 一、北支殊に山西炭油化に關する基本的調査に着手する

一、金、銅、礬土頁岩、黑鉛、石棉その他非鐵金屬資源は埋藏量その他精密な根本調査を遂げた後その開發に着手せしむる

△鑛業行政 一、國防上重要な鐵、石炭等は制限鑛物とし之が開發は指定企業とする

一、鑛業權は從來の探鑛權、小鑛業權等の區別を廣く探鑛權一本に統一する

一、華北鐵鑛會社及び華北探炭會社は從來の官公營企業を基礎とし漸次その他の企業の可及的吸収に努めること

一、日産兩國産の鑛業用品のクレザット

本會記事

重役會並二理事會

總會

四月廿五日午前十一時より重役會並に理事會開會。高野、有江互助會相談役、野上社長、武内專務、久恒、末吉、中島、山本、三崎各取締役、藤井、松尾、橋上(代)互助會理事及有吉、西本、山形會社理事出席左記議案を審議す。

議案

- 一、昭和十二年度互助會決算報告
- 一、會務概況報告
- 一、賦課金ニ關スル件
- 一、理事並ニ監査役、評議員改選ノ件
- 一、互助會鐵鋼統制組合組織ニ關スル件
- 一、互助會石炭株式會社第三期營業報告(十二年下期決算報告)
- 一、會社取締役並ニ監査役ノ補缺選任ノ件

四月廿五日午後二時直方市筑豊石炭鑛業會直方會議所に於て石炭鑛業互助會定時總會並に互助會石炭株式會社定時株主總會を開會。左記事項を附議決議したり。

議案

- 一、昭和十二年度互助會決算報告
- 一、會務概況報告
- 一、賦課金ニ關スル件
- 一、理事並ニ監査役、評議員改選ノ件
- 一、互助會鐵鋼統制組合組織ニ關スル件
- 一、互助會石炭株式會社第三期營業報告
- 一、會社取締役並ニ監査役ノ補缺選任ノ件

鐵鋼材統制事務打合會概要

吉賀生

日時 昭和十三年五月七日
場所 直方市鐵山俱樂部

出席者

福岡鐵山監督局鐵政課長 榎本勝造氏
本會より風戸主事、赤司、山下、吉賀、後藤出席。

出席炭坑

遠賀鑛業所(高松一坑、二坑、金子、黒岩)
山田炭坑(渡邊) 漆生(山口) 大和(中野) 猪之鼻(竹下) 西川鑛業(小野、森本) 金丸高谷大隈坑(佐藤平島、太田、野中) 新手(山下、村島) 土井(瓜生、堀江) 上山(峰) 新目尾(菊池、梶栗、佐上) 相田(西村) 三上、昭嘉(佐野、中島、原田) 岩崎(中津) 眞岡(平野) 鯛之鼻、江口(藤上、村山) 糸飛(熊谷) 第一山野(廣光、荒木) 末吉(川崎代) 庄司(松本)

缺席炭坑

山浦炭坑 新山野炭坑 吉成炭坑 笹尾炭坑 豊州炭坑 久野炭坑 位登炭坑 吉田炭坑 新山部炭坑 鑛西炭坑 辻本炭坑 古館炭坑 佐興炭坑 森中炭坑 白山炭坑 平床炭坑 宮ノ下炭坑 昭和三坑 以上十八坑

榎本鑛政課長の挨拶

今次支那事變モ目下長期戦ニ入り今ヤ蒋介石政権ヲ徹底的ニ撲滅シ日滿提携ノ國是ニ向ツテ着々成果ヲ收メテキマスガ敵ハ蒋介石一派ニ非ズシテ其ノ背後ニ蠢ク諸列強國アルヲ思ヒマス時我等國民ハ一段ト時局ニ對スル覺悟ヲ堅メネバナラヌノデアリマス政府ハ曩ニ國家總動員法、臨時資金調整法其他ノ法令ヲ發布シテ戰時體制下ニ於ケル對策ヲ執ツテ居ルノデアリマス又現代戦ハ結局國力戦デアリ莫大ナル軍事費ヲ要スルノデアリマスガ是等ノ費用ハ結局品物ニ代ヘラレル譯テ從ツテ國民ノ所得ナル結果インフレーションヲ醸成スレバ物價ハ騰貴シ國民生活ニモ重大ナル影響ガアリマスノデアリ局ニ於テハ消費節約、貯蓄獎勵等盛ニ國民ニ呼ビカケテ居ルノデアリマス現下ニ於テハ自由主義的ナ方針ヲ進ムコトハ不可デアリ計畫的ニ産業ノ統制ヲ圖リ生産力ノ擴充、物資ノ圓滑ナル供給ノ統制ヲ要スルノデアリマス鐵鋼材ノ統制モ是等國策ノ線ニ添フベク企畫サレタノデアリマス本來鋼材ハ國內テ自足自給出來テキルノデアリマスガ事變ノ爲メ消費部門ニ一大變化ヲ生ジ、軍需用ニ多量ノ需要アル爲メ平和産業ノ消費量ヲ節約セネバナラヌ事ニナツタノデアリマス

今回ノ鐵鋼材統制ノ方法ニ付テハ種々論議サレタノデスガ結局當業者ノ自治的統制ヲ行フコトガ穩當デアロウト云フ事ニナツタノデアリマシテ九州總話會(聯合會系)宇部鑛業會、互助會及アウトサイダーチ一丸トスル石炭山協議會ノ四團體ガ認メラレタノデアリマス統制團體ノ機構ハ中央ニ鐵鋼材統制協議會ガアリ地方ノ統制團體ハ鑛山監督局ガ之ヲ統轄スルコトニナツテオリマス團體ノ仕事ハ三ヶ月毎ニ需要量ノ調査ヲ行ヒ之ヲ基礎トシテ配給量ヲ決定スルノデスガ配給ノ順序ハ先ヅ各統制團體ヨリ提出サレタ需要調査表ニヨリ中央ノ統制協議會ハ監督局別ニ割當量ヲ査定シ是ヲ聯合會系組合ニ何程、其ノ他ニ何程ト査定シテ各監督局ニ通知ガアリマス、監督局ハ之ヲ各團體ニ通知致シマス各團體ハ其配給量ヲ適宜分配シテ證明書ヲ出スコトニナツテオリマス需要者ハ證明書ヲ持テ商人ヨリ購入スルコトニナルノデアリマス團體ノ機構並事務ハ以上ノ通りデアリマスガ配給統制ヲ確立スル爲メ日本鋼材聯合會傘下ノ鋼材指定問屋ノ内重ナル五十余店ハ全國鋼材商業組合ヲ結成シ之ト併行シテ各府縣別ニ府縣特約店商業組合ヲ設ケ國策ニ順應スルコトニナツテ居リマス尙今回統制ノ對象トナルノハ普通鋼材トシテノ第一次生産品ノミ

デアリマシテ特殊鋼材及加工品ハ統制外トナリマス從テ機械器具類ハ從來通り直接商人ヨリ自由ニ購買出來ルノデアリマス終リニ重テ申上ゲマスガ本統制ハ飽クマテモ當業者ノ自治的統制ヲ進ムノデアリマスガ若シ統制ヲ紊ス様ト場合ハ或ハ國家權力ノ發動ヲ見ナケレバナラヌ様ニナルヤモ知レマセン斯ル事態ヲ惹スコトハ當業者ノ大ナル不名譽デアリマスノデアリ特ニ自覺シテ頂キ互助會ノ意氣ト熱トヲ以テ模範的ナ組合トセラレンコトヲ切望シテ巴マヌ次第デアリマス

赤司主任

只今鑛政課長ヨリ詳細ナル御説明ト御懇篤ナル訓話ヲ拜聴致シマシテ難有存ジマス今ノ御話ヲ大体御解リノ事ト思ヒマスガ事務取扱上尙御不審ノ点ガアリマスレバ御遠慮ナク御質問ヲ願ヒマス尙需要調記載事項ニ付一、二、氣付キタル点ヲ申上ゲマス

- (一) 建築用ニハ製鍊場、選鑛場其ノ他工作物ノ建物ニ使用スルモノヲ記入スルコト
- (二) 土木用ニハ打止堤防、沈澱池等ニ使用スルモノヲ記入スルコト
- (三) 同上以外ノ坑外用ニハ軌條其ノ他ノモノヲ記入スルコト

- (四) 坑内用ニハ軌條支柱其ノ他ノモノヲ記入スルコト
- (五) 自家製造機械器具用ニハ鑛山工場ニ於テ製作修繕ニ使用スルモノヲ記入スルコト
- (六) 購入機械器具用トハ鑛岩機、選鑛製鍊用機械器具(タンクヲ含ム)電動機等ニシテ之ニ使用セラレタル鐵鋼ノ數量ヲ記入スルカ又ハ其ノ種類(名稱)太サ及台數ヲ記入スルコト(之ハ機械器具製作會社ノ鋼材需要量ノ調査資料トナリマス)
- (七) 需要量調査表ニ記入スベキ數量ハ總テ噸單位トス

次ニ統制事務取扱上ニ付二、三申上マス

- (一) 鐵鋼統制ノ事務ハ時局柄國力ノ消長ニ影響スル國家的重要事業ナルコトヲ自覺シテ事務取扱上敏速ニシテ且正確ヲ期スルコト
- (二) 年間ヲ四期ニ分チ(一月―三月、四月―六月、七月―九月、十月―十二月)各三ヶ月間ノ需要量ヲ査定シテ制當テラル、ヲ以テ其ノ資料トナル「用途別需要量調査表」ハ期間二ヶ月前ニ互助會協議會宛提出スルコト
- (三) 近ク互助會協議會規約ノ成案ヲ見ル答ナルガ事務所ヲ便宜互助會内ニ置クコト、ナルヲ以テ總テ本件ノ書類及電話照會等全事務所鐵鋼統制事務所係宛トスルコト
- (四) 需要調ハ鑛業施業案ニヨル炭坑別トスルコト

夫レヨリ懇談ニ入り種々質疑應答アリ午後四時閉會セリ

鐵の種類とその用途

鐵の種類

鐵は通常多少の外の元素を含み中には硫黄や燐のやうにその存在が却つて有害のものもあるが中には炭素やマンガンのやうにその存在が却つて鐵の實用上の性質を良くしこれを態々或は製鍊の便宜上特に加へられたものがある。

鐵はそれらの含有物の種類並に分量によつて性質を異にしこれを大体次のやうに分類せられる

- 一、純鐵……純粹の鐵
- 二、銑鐵……一名鑄鐵、一・七パーセント以上の炭素と多少の珪素等を含むもの
- 三、鋼鐵……一・七パーセント以下の炭素と多少の珪素等を含むもの
- 四、鍊鐵……銑鐵また鋼鐵中に多少の鐵滓を含むもの
- 五、合金鐵、合金鋼又は特殊鋼鐵、炭素、珪素等の外ニ

ツケル、クロム、マンガ、タングステン等の金屬を含むもの

純鐵の性質

純粹な鐵は灰色で比重七、八六硬度四乃至五、即ちナイフで容易に傷つき特に熱せば柔軟となり打てば展がり引けば延びるやうになり硬さを必要とする用途には向かない。化學的にも水中或は濕つた空氣で酸化し易く、酸に對しても抵抗が弱く、裝飾用などとしても價值がない。その上これを純粹に得るには電解を試み。或は複雑な經費を要し實用上には殆んど利用せられない。

銑鐵一名鑄鐵

炭素一、七乃至六・六八パーセントを含んだ鐵であるがその大部分は二・五乃至四・五の炭素を含み、他に三パーセント以下の珪素と一パーセント内外以下のマンガンを含むものが常でありこれを融かして急激に冷やせば炭素

は鐵と化合してセメントと稱する特質となり肉眼的に白色であるから白銑といはれ非常に硬い代りに脆い、これに又反して銑鐵を融かして徐々に冷せば炭素は分離して黒鉛となるから肉眼的に灰色となりこれを通常風銑といはれ比較的柔かであり特に炭素の多いものほど柔らかい。それ故特に硬い表面が必要な場合には、銑鐵の表面を時に急激に冷やす場合がある。

銑鐵は脆くて割れ易いから、打つて鍛へたり、引いて伸ばすことは出来ないが、火に融け易く、複雑な型の鑄型にもよく注ぎ得るから、これを一名鑄鐵と稱し、工業用の種々の機械や、日用品に使用せられて用途多く、また鋼鐵の材料として用ゐられる。

例へばストーブ、耕作用具、用水鐵管、窓枕等に使用せられる銑鐵は、通常三・五パーセント内外の炭素と、二乃至二・五パーセントの珪素とを含み、形の複雑な美術鑄物や精密鑄物の材料には、更に一層炭素を含んだものが多い。これに反して工作機械、軌條、ピストン等、硬さを必要とする鑄物には、炭素は、三・二パーセント内外

を含むが、珪素は、二・〇パーセント以下を可とし水力ピストンや針金を引く抜く板(ダイス)用のものは、炭素三パーセント内外、珪素一乃至〇・五パーセントとを含むに過ぎぬ。この外最大それぞれ一パーセントのマスガン及び燐を含むが、硫黄は〇・一二パーセント以下に限ることを必要とする。

若しまた炭素三パーセント前後、珪素〇・五乃至一パーセントを含んだ銑鐵を融かして、鑄型の中に急激に冷やして白銑とし、これを再び九〇〇度前後に暫らく熱すれば、炭鐵中の炭素が黒鉛として離し、打つて鍛へることが出来るやうになるので、これを可鍛銑鐵といはれ、また若し銑鐵に鋼鐵の屑を加へて融かし合はせれば、鋼性鑄鐵一名半鋼(セミ・スチール)が得られる。

鍊鐵の本體

銑鐵の碎け易い點を補ふために、嘗て主として用ゐられたのが鍊鐵であつて、これは充分打つて鍛へることが出来る。しかし今では一層便利な鋼鐵が廉く出来るので、鍊鐵は殆んど用ゐられぬ。

鍊鐵はその質鋼と、鋼鐵を造る際の鐵滓とが、なほ完全に分離しないもので、高い温度を得難い場合に出来るのである。例へば古來中國地方で鐵を得るには、砂鐵と木炭とを粘土で作つた爐の中に入れ、天秤輻で風を送つて木炭を燃した程度であるから、鐵の一部は多量の炭素を吸収して融け易くなり、鉄鐵となつて爐底に湛るが、一部は鐵滓を含んだまゝ、鍊鐵となり、炭素分が甚だ少ないから、鍛鍊熔接に便利であり、特にそのうち炭素〇・五パーセントを超えるものは、急冷すれば硬くなるので鍊鋼といはれ、日本刀の原料として貴とばれた。

炭素鋼とその用途

炭素鋼とは炭素一・七パーセント以下を含んだ鐵で、この外常に多少のマンガ、珪素、硫黄、燐、酸素、水素等を含み、このうちマンガンは硫黄及び酸素を奪つてそれらの害を除く外、餘分にあつても嘗て鐵の強さと硬さを増すから、これを殊更に加へるもので、通常〇・一乃至〇・七パーセントを含むが、他は何れも有害で、硫黄は〇・〇五、燐は〇・〇六以下なるを要し、珪素は稀に一

パーセントに達する。

その性質は炭素の割合によつて異なる外、焼き入れ、焼き戻し、焼き、し、押し延ばし、引抜き、打ち鍛へ等の方法によつて、その性質が甚しく變化する。若し水中に焼き入れして、急に冷やせば硬くなり、これを高温度に焼き鈍せば、硬さは減るが伸び易くなり、また高温で打ち鍛へれば伸び易く、且つ弾性を加へるが、五〇〇度附近でこれを鍛へれば破れ易く、低温で加工すれば硬くなる。また一般に炭素が少なれば軟かく、これを増加すれば硬くなる。

以上種々なる方法によつて、炭素鋼には、種々の性質を與へ得るから、種々の器物の製作に適する。それにはこれを融かしたまゝ、砂で造つた型に送つて、そのまま種々の鋼鑄物とすることも出来るが、普通は一旦鑄型に注ぎ込んで正方柱狀、六角柱狀、長方板狀等にする。これを通常鋼塊と稱する。この際鋼塊の内部には、酸化鐵の分解によつて、氣泡を生じ易いから、マンガンを加へて酸素を奪ふのが常である。

板狀の鋼塊はこれを平滑な壓延機にかけて一層薄い鋼板にひろげ、柱狀の鋼塊は溝のついた壓延機にかけて鋼條又は鋼筋にする。但し時には一層大きな鋼塊を、分塊壓延機にかけて、まづ長方形の製板用鋼塊、即ちスラップ、或は製條用角材とし、そのうち一〇センチ角以上のものをブルーム、それ以下のものをピレットと稱する。これらはすべて高温の下に行はれるが、これから更に鋼線を得るには、鋼條を冷やして表面を淨化し、牽き板(ダイス)の孔を通してこれを引き、次第に直徑を小さくし鋼管を得るには鋼板を巻いて後白熱し特別の機械で鍛接し或は丸鋼から特別の壓延機で打ち貫くのである。これら種々なる方法で造つた鋼板、鋼條、鋼筋等は大は艦船、建築、橋梁、鐵道等の材料から、小は縫針、鐵ペン等に至るまで極めて廣く用ひられる。

特種鋼又は合金鋼

普通の炭素鋼に於ても常に多少のマンガ、珪素等を含むが時には特に多量のマンガ、ニッケル、クロム、タングステン等を加へて鋼鐵の性質を一層強くする場合が

ある。この種の鋼を特殊鋼、或は合金鋼と稱し、その第一は近年廣く世人に知られる錆びない刃物の主成分を成す。クロム鋼で〇・五パーセント以下の炭素の外一二乃至一四パーセントのクロムを含むもので、大氣中で錆びないばかりでなく、塩酸以外の酸に對する抵抗も大きい。この外僅かに一パーセント程度のクロムを加へても容易に硬い鋼鐵を得、刺力、鋸、鋸、錐、鑿、砲彈等に適し、クロム二乃至四パーセントを含むものは、これを壓延して裝甲板等を造るによい。クロムの代りにニッケルを加へればニッケル鋼を得、その質均密で衝撃に對する抵抗に富み焼入れすれば硬くなるので、ニッケル僅か一乃至三パーセントを加へたものを砲身、橋梁齒車、車軸等として極めて廣く利用される。

この外ニッケル三六パーセントを含むものは熱による膨脹收縮が少ないから不變鋼と稱して精密機に適し最近更に増本博士の發見にかゝる。超不變鋼はニッケル約三二の外コバルト五、パーセントを含むものである。タングステン一乃至一〇パーセントを加へたタングステ

ン鋼も非常に硬いからその四パーセント以下のものでも
銼身、剃刀、錐、鋸、牽き板等に適し、永久磁石もまた
その一種である。通常高速度鋼と稱し、圓鋸等のやうに
烈しい速度で回轉し摩擦熱のために高熱せられてもなほ
その硬さを失はないものも、タンダステス一二乃至二〇
の外クロム三乃至五パーセントを含んだ低炭素鋼であ
る。マンガナーパーセント内外を含んだ低マンガン鋼は
主として軌條に用ゐられ、マンガナーパーセント程を
含んだ高マンガン鋼は、軌條の彎曲部、鑿岩機の冠等の
やうに、磨滅し易い部分に用ゐるに適してゐ、珪素に富
んだ珪素鋼もこれを適當に處理すれば非常に弾性が高く
なるから、列車のバネ等に用ひられる。

商務委員の一行

早良礦業所視察

本社の商務委員藤江正泰、柴田猛雄、庄野崎道雄、松野梅
太郎、久恒英都、村田長一郎、川上等、天羽薫、安部榮、
菊池正信、河原欣作の諸氏並に本社側風戸主事、鍋島主任

安西、須藤、熊川の一行は五月六日九曹の長谷川政廣、進
野武雄兩氏の案内にて、近く本會に入會する豫定の日本曹
達經營の早良炭礦視察の爲め福岡市姪濱町の同礦業所に出
張、三崎常務、市河礦長、磯海靜郎、塩路誠二兩氏より交
々炭礦の内容其他の説明を聞き、それより貯炭場洗炭場を
視察した。



第二回事務打合部會概要

◎第二回事務打合事項

- 一、前部會申合事項ニ關スル件
一、貨車問題ニ關スル件
(1) 毎月ノ送炭申込書ノ書方ニ就キ
(2) 五月分配給車査定案ノ審議
(3) 驛長取纏メノ各坑貯炭高調ニ就キ
(4) 送炭休日ニ就キ
(5) 門鐵局並驛長ニ對スル請願ニ關スル件
(6) 其他一般事項
一、會社宛ノ貯炭送炭等ノ報告ノ件

◎第二回部會携帶書類

- 一、第一回事務打合部會議事録
一、第二回部會提出表(會社ヨリ送附ノモノ)
一、其他部會ニ必要ト認メタルモノ
會社側出席者 安西、須藤

◎議 事

○安西社員挨拶

第二回事務打合ノ審議ニ入ル前ニ第一回部會開催ノ經過並影響ニ
就キ、即チ部會ノ意義ガ對外者ニ奈邊迄徹底セシメ得タカ、從ツ
テ現在アゲツツアル部會ノ效果ト實績ノ如何ナルモノデアルカ一
言申上ゲタイト思フ
扱吾々部會ニトツテ關係ノ最モ深イト思ハレル鐵道關係方面ダガ
門鐵ノ貨物課ニシロ、門鐵運輸事務所、又鐵道出先機關タル各驛
ニシロ日ニ増シ部會ナルモノヲ理解シ吾々ヲ後援シテ下サツテ居
ルノデアル、即チ前部會ニ於テ打合セヤ申出アツタ事項ニ對シテ
詳細ニ説明ヲ與ヘラレ吾々ノ要求ニ對シテハ總テ入レテ貰ツタノ
ヲ見テモ判断出來ルト思フ、後刻「前部會申出ニ關スル事項」ノ
所ニテ一々説明申上ゲルガ皆様ニ於テモ既ニ充分心當リノ事ト思
フ、又若松方面ニ於テモ(主トシテ西部棧橋)西部ニ於ケル荷卸
ノ如キモ一日總平均ガ十三年一月ガ二百十五台、二月ガ二百二十
五台、三月ガ一躍三百二十二台トナリ、四月ニ入ツテハ一日ニ四
百台ヲ超ヘルコトガアツタノデス、此ノ成績ヲ見テモ以前ハ三百

台子超へル日が一日デモアツタナラ御祝ヒマテスルト云フ事デア
ツタガアレ程困難ナル種々ノ條件ヲ有シテラ大手筋關係(東、中
部)ノ域ヲ凌駕スルニ至ツテ居ルノデア

以上ハ單ナル一例デアアルガ之ハ要スルニ各位ノ時代ニ對スル覺醒
ト自齋並ニ鐵道當局ノ吾々部會ニ對スル理解ト絶大ナル支持ノ結
果ノ致ストコロト思フ、又如斯鐵道當局者ノ贊同モ此ノ吾々部會
ナルモノ、順調ナル成長發展ハ鐵道ニトツテ今後益々裨益スルニ
至ルデアアロウト云フ希望ノ大ナルモノガアル爲ノ結果ト思フノデ
アル、次デ一般關係者ニ於テモ大同小異ナガラ皆部會ニ對シテハ
大キナ關心ヲ持ツテ居ルノデア

以上考へルトキハ吾々部會關係各位ニ於カレテモ將來部會ニ對ス
ル一段ノ努力ト責任ノ生ズル所以デアアルノダカラ目下對外的ニ稍
認メラレテ從ツテ效果モ舉リ諸種ノ條件ガ少々有利ニ展開スルニ至
ツタ、此處デ手續ヲ緩メルナラバ今迄ノ心勞モ立チドコロニ水池
ニ墮シ以前ノ儘ノ苦境ニ立チ至リ過去ノ苦イ經驗ヲ嘗メナケレバ
ナラヌコトハ火ヲ見ルヨリハ餘リニ明ラカナコトデス。若シ以前
ノ苦シイ立場ニ呻吟シタクナケレバ此處ニ更メテ各位ノ固キ決心
ト相互ノ連絡ヲ一層密接ニシ互助會獨自ノ進ム道ヲ開拓シ部會ノ
健全ナル發達ヲ期シ其ノ使命ヲ遺憾ナク果シタイト思フノデス。

次ハ例ニ依リ順ヲ追ツテ今回ノ議題ヲ説明シタイト思ヒマス

○頭書ノ議題ニ關スル安西社員ヨリノ説明

一、前部會申合事項ニ關スル件

本件ニ就イテハ部會ノ回数ヲ重ナルニ從ツテ前部會ノ申出ヤ打合
事項ガ如何ニナツテ居ルカ、又如何ナル實績ヲ舉ゲテ居ルカト云
フ事ヲ部會毎ニ前部會ノ事ヲ再審議シ一層效果アラシメル爲メ、
今後ハ一度議題ニ登リ種々申合シタルモノハ其之儘放置セズ又各
位ニ於テモ前部會ノ申出ニ就イテハソレガ完成スルダケノ、權利
ナリ義務ヲ有シテ居ルト思フ、故ニ一通リ前部會ノ議事録ニ依リ
前回ノ申合ヲ再檢討シ經過ノ御報告ヲ兼テタイト思ヒマス。

一、貨車問題ニ關スル件

(1) 毎月ノ送炭申込書ノ書方ニ就キ
毎月鐵道ニ提出スル送炭申込書ガ如何ニ大切ナモノカ、之ノ書
類ノ良否ガ毎月ノ査定ノ取極メ並ニ毎日ノ配車ニ重要ナル役割
ヲ果スコトハ各位ニ於テ充分承知ノコト、思フ今日迄各坑ヨリ御
提出アツタモノハ非常ニ不完全ナルモノガ多ク之レガ爲隨分互助
會側ハ損ヲシテ來タ、吾々ガ門鐵局ヘ出頭シ各位ヨリ種々ナル要
求ヲ強調致スト鐵道當局者ハ其ノ炭坑カラ提出ニナツタ此ノ申込

書ヲ目前ニ突付ケテ「コンナ申出テシテ居リ乍ラ云々」ト一言ニ

シテ勇氣モ碎ク萬策ナキコトガ再三アツタノテ今後ハ正確ニ必ズ
掛引ナク誠意ヲ示シ門鐵局ノ意ニ添ヒタイト思フ。

次ニ門鐵局ノ希望シテ居ル書方ヲ一應説明申上ケル

○前月ノ實績 此ノ數字ハ既定ノモノテ變更出來ヌモノ
○豫定數量 此ノ總計ハ必ズ實績ノ計ニ等シキコト(但内容
ノ數字ハ適宜變更可能)

○増送數量 之ノ欄ノ書方ニ依リ來月ノ査定ニ増減ヲ來スコ
トニナルカラ充分注意サレタシ。(尙誤解サレヌ様増送數量
ハ必ズ記事欄ニ内譯ヲ説明スルコト)

次ニ増送數量ノ如何ナルモノカヲ説明申上ケル

- 1 前月ノ出炭高ト送炭實績トノ差
- 2 現在貯炭ノ内ニテ是非トモ來月送ラネバナラヌ數量
(但不得止場合ノ外ハ二ヶ月ヲ以テ貯炭ヲ消化スルモノ
トス)
- 3 前月ヨリ出炭増ノ見込數量

追而本書ヲ鐵道ヘ提出スルト同時ニ本書ノ寫ハ必ズ互助會業務係宛
提出アルコト、(尙之ノ寫ハ互助會ノ門鐵ニ對スル接渉ノ貴重ナル
資料トナル爲メ必ズ御忘レナキ様重テ御願ヒスル)

(2) 五月分配車査定案審議

先回申合セシ通り各自ノ査定案ハ部會ニ於テ互ニ持合議スルコ
トニナツテ居ルガ現在デハ各自持合ノ資料ニ對シテ、互ニ是否ノ
認識ヲ下シ兼ネル爲メ此處ニ、三ヶ月間ハ各自資料ニヨリ査定案
ヲ審議致シ度シ。

(3) 驛長取纏メノ各坑貯炭高調ニ就キ

現在驛長ガ毎日ノ十五日、未日ノ二回ニ亘リ各坑山元貯炭高ヲ調
査シ之ヲ門鐵局ニテ筑豊全体ヲ一表トシ、運輸事務所ヲ始メ關係
各課ニ配布シアルガ、内容ニ至ツテハ甚ダ遺憾ノ點ガ認めラレル
、御承知ノ如ク此表ニ依リ毎日ノ貨車ノ配置ニ加減ヲナシ居ル爲
メ、今後ハ今迄ノ如ク驛長ガ貯炭モ見ズニ勝手ニ報告スル様ナコ
トナク、必ズ炭坑自身ヨリ驛長ニ届出ル様御願ヒスル

(4) 送炭休日ニ就キ

本件ハ常ニ問題ニナル様ダガ、門鐵ノ意向トシテハ非常時輸送ヲ
必要トスル今日ノ情勢ナルタメ當分ノ間送炭休日ヲ認メヌ方針デ
進ム由ナル爲メ更ニ此點報告申上ケル。尙從來ノ様ニ休ムニ不拘
貨車ヲ請求シテ積込マズニ貨車不足ナ今日便々トシ空車ノ儘放置
シアルガ如キハ誠ニ遺憾ノコト、思フ。又不得止場合ノ休日ハ驛
長ヲ通シテ願イ申出ルト共ニ必ズ互助會ノ方ヘモ理由ヲ届出ズル

コト、無斷テ休ミシ場合ハ送炭ニ餘裕アルモノト認ム

(5) 門鐵局並驛長ニ對スル請願ノ件

先回ニモ申下タタ通り鐵道ニ對スル諸種ノ請願ニ關シテハ必ズ互
助會ノ方ニ届出、互助會ト共々ニ交渉ナリ懇願ナリナスル事ニナ
ツテ居ルガ、其後届出ノナイ處ヲ見ルト、餘リ請願モナカツタ様
ニ思ハレルガ、今後請願等アリシトキハ必ズ互助會ノ方ニモ報告
アル様更メテ御願ヒスル。

(6) 其他一般事項

本事項ハ各位ノ希望ナリ申出サレル爲メニ特ニ掲ゲシ事項ナレ
バ、充分申出アリタシ。

一、會社宛ノ貯炭、送炭等報告ノ件

會社宛ノ貯炭、送炭等外スベテノ報告書類ハ統制會社ヲシテ其本
來ノ機能ヲ充分ニ發揮セシメ得ルカ否カノ基礎資料トナル爲メ今
後ハ期日迄ニ必ズ遲滞ナク提出アル様更メテ御願ヒスル

◎西川部會

四月九日(土) 芦屋山香屋

○出席者

海老澤炭礦 天羽

別府炭礦 原田、松尾

西川一〃 進野、吉田 西川二〃 丸井
新目尾〃 菊池、須藤 吉田〃 原
神田〃 岩野 白山〃 缺
森中〃 榎本 江藤〃 缺

○申出並打合事項

一、設備請願ニ際シテハ保線區ノ誠意ノ點ニ疑義ガアル、又門鐵
内ノ制度ノ簡易化ト書類ノ不備ナル點ヲ少クスル爲手續書類ノ
平易化ヲ要スルト思フ

一、西川二坑

前部會申出ノボケツト工事ト微粉炭ニ關スル工事請願ノ件ハ刈
田工場、旭ガラス送り指定輸送ノ件ト共ニ更メテ請願手續ヲ
ルコトニ致シマス

一、別府炭坑

除柵請願ノ件ニ就キ二月十八日付ニテ手續願書ヲ提出シ當時大
体ノ了解ヲ得テ埋立工事ハ既ニ進ンデ居ルガ正式許可ガナイガ
如何

一、八尋、室木驛ノ各坑分査定ヲ各々三十噸ヲ増配シテ貰ハナケ
レバ毎日ノ紛糾ニ耐ヘラレナイ状態ニアル

一、森中炭坑

戸畑汽船集炭ハ常ニ不足ヲ迷惑ナシテ居ルガ御配慮ヲ乞フ

一、室木線ノ列車系統ナ一日モ早ク都合ヨク變更シテ貰ヒタイ

◎遠賀部會

四月十一日(月) 香月町梅ノ屋

○出席者

高松一、二坑 福田 岩崎炭坑 平井、宇佐美
大隈〃 野中 高谷〃 平島、瓜田
末吉〃 繩手 新木屋瀬〃 安武
高江〃 瓜生、千々和 新高江〃 西
山浦〃 米倉 新山〃 河原、林
地生〃 缺 新山部 缺
宮ノ下〃 缺 (以上十四名)

○申出並打合事項

一、末吉炭坑

宛先變更ノ件ニ就テ輸送中ニアルモノノ變更ハ出來ヌガ如何
(例ヘバ鹿兒島へ輸送中ノモノヲ博多ニ變更スル等)

一、新高江炭坑

宛先振替變更ノ件ダガ西部發送止メ等ノ際香月驛カラハ若松北
湊送りノセム車使用ヲ許サヌガ他線他驛ニテハセム車ノ使用ヲ
自由ニ許可輸送シテ居ルト云フ事ヲ商店側カラ聞ケガ如何

一、香月線内ニテト號車ノ不公平配車ガアル様ダガ他日實績ニ依
リ御願ヒスル

一、木屋瀬線指定輸送ノ件ハ一應關係者ニ於テ研究ノ上御返事ス
ル

一、金丸高谷炭坑

炭坑テ配車ヲ請求スルトキハ各自夫々ノ考ヘアツテ貨車ヲ請求
スルノダカラ炭坑ノ積込意志ヲ尊重シテ貰ヒタイ、五臺ノ配車
テ夜間作業ヲ爲サネバナラヌ現状ダカラ晝間ノ配車ヲ或程度加
減シテアモ夜間ノ分ニ對シテ十臺ノ配車ヲ希望ス

一、山浦炭坑

今日デモ驛員ノサービスノ點ニ疑問ガアルト思ハレル

一、新木屋瀬炭坑

新木屋瀬炭坑ニ於テ本月ヨリ中島坑ヲ經營スル事トナリ來月ヨ
リハ本坑ト新坑ト中島坑ト合算シテ少クトモ二、四〇〇噸ノ送
炭ヲ必要トスル故是非共獨立査定配車サレタシ

一、新高江炭坑

本坑ハ斤先ニ小鶴坑ト新高江三坑ヲ有スル爲毎日ノ配車ヲ分配
スル爲ニ常ニ紛争ヲ來タシテ居ル始末ダカラ是非共増配ヲ乞フ
尙斤先ノ獨立ヲ考ヘテハ居ルガ獨立ノ件ニ付テハ後日御相談ニ
參上スル。

◎飯塚部會

四月十三日(水) 飯塚商工會議所

○出席者

幸袋炭坑	荒井	加茂炭坑	加茂
佐興 "	靱井	庄司本坑	埴田
相田 "	棕本	" 二坑	北村
筑前 "	若山	鎮西 "	缺
第一山野 "	川原	新山野 "	森

(以上 九名)

○申出並打合事項

一、山野線ノ列車引出シテ一日三回トシテ貰ヒタイ、貨車ノ不足
ナ現在日ニ一回ト云フコトハ盈車ノ足ヲ永ク止メルコトトナリ
當ヲ得ヌ事ト思フ、左記ノ通り願ヒタシ

山 野 線

A, M 5.00 空車入レ (大部分)

" 8.10 旅客 引出ノ時間ノ餘額ヒタシ(引出客車)

P, M 1.40 空車入レ

" 4.10 引出シ、之レ次ニチン無量トナツテ居ル

" 7.00 旅客(夜間貨車入レ) 30分餘額アリ(引出客車)

一、新山野炭坑

ホーム線延長並ボケツト工事ニ關スル請願ニ就テハ一月十三日
願書ノ提出アルガ一日モ早ク許可工事ヲシテ貰ヒタイ(願書ノ
事務所カラ局ニ廻ツテ居ル筈)

一、山野線ノ引込線が出来タ爲職員一名増員、之ニ對スル給料ノ
割當ヲ關係炭坑ニ振當テ、居ルガ鐵道當局ノ意ノアル處ガワカ
リカネル、ソレダケ輸送量ガ激増シ鐵道トシテモ増收入トナリ
居ルニ之ニ要スル經費ヲ何故荷主側ガ持タネバナラナイカ

一、筑前炭坑

(1) 小倉工廠送りハ從來石炭車ノ使用ヲ許可シテ居タガ最近ニ
至リトム車テナクテハ許可セヌガ如何、又當驛ニ於テ空車ニ
ナツタ小形ト號車モ制限ナク使用サシテ貰ヒタイ

(2) ト號車ガ少ナイ爲若松微粉炭線送りニモ石炭車ヲ使用サセ

テ貰ヒタイ(一般ニ出來サケンバ若松發送止等ノ如キ場合丈デ
モ)

一、加茂炭坑

大阪淀川ニトム車テ送りタイガ小形ト號車テナクテハ許可セヌ
ガ今後ハ是非共大形ト號車ニテモ發送出來ル様ニ願ヒタイ

一、相田炭坑

一番線ノ盈車ハ引出少キ爲立チ通シテ作業ニ支障ヲ來シテ居ル
上空車ヲ入レテ貰ヒテ貰ヘナイ爲非常ニ困リ居ル、西八幡製鐵
行專用列車ノ索引力ヲ増シテ之レニテ引出丈ケテモ願ヒタイ、
即チ三時ノ八六機關車ヲ九六ノ大形ヲ入レテ貰ヒタイ。
一、小竹驛カラ奥ノ貨車ニ封シテハ小竹驛テ列車ヲ編成シテ見テ
ハ如何(小竹一瀨、小竹一上山田間ノモノヲ小竹ヨリ直通若松
戸畑)小竹驛構内ニハマダ餘裕ハアルシ擴張スルニシテモ直方
驛ヨリモ小竹驛ノ方が諸種ノ點カラ見テ餘程樂ト思フ。

◎上嘉穂部會

四月十四日(木) 山田炭坑クラブ

○出席者

昭嘉炭坑 辻田 日吉炭坑 江島

漆生 "	久恒、吉崎	猪ノ鼻 "	尼ヶ崎
大和 "	濱田	山田 "	福田、松尾
三上(大定)	有江、古賀	木城 "	武田、篠塚
上山 "	原田	笹尾 "	缺
吉成 "	麻生	靱井 "	缺

(以上十四名)

○申出並打合事項

一、吉成炭坑

近距離輸送ニ對スル石炭車使用ヲ許可シテ貰ヒタイ、ト號車ガ
入ラヌタメ)竹下ノ日本ビル送りノ如キ鳥栖管内カラノ輸送
ハ石炭車使用ヲ許シテ居ルガ如何

一、漆生炭坑

字ノ島(九水)送りニ對シテセム車ノ使用ヲ是非共許可シテ欲
イ毎日送炭セネバナラヌノダカラ特別ニ割當制度ニテモシテ貰
ヒ三十廬ノ配車ヲ願フ、サモナケレバト號車ヲ間違ヒナク配車
ヲ願フ

一、山田炭坑

今月ニ入りト號車配車ガ非常ニ惡イガ如何ナル意味カ

一、笹尾、靱井炭坑

獨立査定ナサレタシ(兩坑ニテ月額二、五〇〇噸出炭ス)

馬車一台ニ依ツテ經營スル炭坑ト坑夫百人ヲ有スル炭坑トノ間ニ其ノ日ノ配車ヲ抽籤ニ依リ分ケナクシテバナラヌト云フ拙劣ナ方法ヲトツテ居ル、兎角各坑配車ハ紛糾シ易イ

一、山田炭坑

ト號車ノ掃除ヲ長クヤツテホシイ、松ノ皮、パラス、アス等大分ヒドイノガアルカラ

一、日吉炭坑

無煙、瀝石ハ實先ニ特殊ノ事情ガアル爲ト號車(大形或ハ小形)ヲ請求通リ配車シテ貰ヒタイ

一、漆生炭坑

シヤモツトニ對スル配車ハ石炭ニ對スル配車ト混同サレ勝チダカラ單獨配車ニシテ貰ヒタイ、有蓋車デナク無蓋車ノ配車ヲ希望ス

望入

一、上山田線ノ配車ハ他線ニ比シ惡イ事ハナイト云フ事ダガ確カニ惡イト思ハレル

一、列車ノ臨時運轉休止ノ際ハ炭坑トモ打合セテ貰ヒタイ

一、各驛長ニ荷卸場ノ見學ヲサシテ貰ヒタイ

◎田川部會

四月十六日(土) 早麻氏宅

○出席者

眞岡 炭坑	江副	豐州 炭坑	大串、長田
平床 "	缺	位登 "	長尾、立石
上添田 "	福島	田中新庄 "	田中
糸飛 "	伊藤	新平和 "	角銅、徳納
辻本 "	辻本	河内、山田	
高辻 "	大藏	新田川 "	佐藤
久野 "	久野、篠崎	木原(成谷) "	最所
古館 "	松本		

(以上十九名)

○申出並打合事項

一、新田川炭坑

(1) 西八幡送りノ中テ製鐵送り分ハセム車ヲ許可スルガ驛構内卸シハト號車デナクテハ許可セヌガ他驛カラハセム車ノ使用ヲ許シテ居ルガ如何、池尻驛デハセム車ノ使用ヲ若松、戸畑葛葉送りダケニ限定シテ居ルガ驛長ノ主觀ニ依リ左右サレテ

居ルノデハナイカト思ハレル

(2) 日本化成送りハ大量送炭ヲ必要トスルカラセム車ヲ許シテ貰ヒタイ

貰ヒタイ

(3) 直方ノ機關庫送りガナクナツタノダカラ若松ノ査定ニ振替

ヘテ貰ヒタイ

一、九州産業ノ送石ニト號車ヲ取ラレツ、アリハシナイカ、之ヲ少々制限シテ貰ヘナイモノカ、田川線ハト號車ガ多イト云ハレルガ之ガ爲實ノ所吾々炭坑業者ヘノ振當ハ非常ニ少イ

一、夏吉驛ノホム線延長ト渡リ線ノ件ト、池尻驛四番線ノ延長ト三番線ト四番線間ノ渡リ線ノ件ニ關スル工事歎願ニ就テハ更メテ關係炭坑ニテ取纏メ御願ヒスル事ニス

一、古辻分ノ配車ニ關スル件ハ更メテ關係者ニ於テ意見取纏メ御相談ニ上ルコトニス

一、豐州炭坑

今月ニ入り急激ニ貯炭ノ増加ヲ來シ困難致シ居ル爲是非共今月中ヨリ増配方ヲ御願ヒシタシ

一、起行驛ニ於ケルボタ洗炭ノ貨車ノ廻リハ非常ニ良イガ如何之レニ何故優先的ニ多ク配車スルカ

一、今後ハ夏吉驛ノ各坑共夜間作業シタシ

淺野セメントニ納石シタ空車ガ毎夕十台位滞車(一夜止置、翌日ニ成リ始メテ配車ナリ、引出シナリナナス現狀)シテ居ルカラ之ヲ夜間作業ヘ利用方許可シテ貰ヒタイ。之ニヨリ相當車ノ足ヲ早クスルコト、ナル

一、池尻驛ニテモト號車ニセム車同様配置票ヲ御願ヒシタシ

一、新平和炭坑

市電送りニモセム車ヲ使用サシテ貰ヒタイ

一、新田川炭坑

市電發送止メノ際北湊ト濱町卸シトナ區別セズ止メテ居ル様ダガ常ニ濱町ノ方ハ餘裕ガアリ止メナクシテバナラヌト云フ理由ガワカラナイ

一、木原炭坑

東小倉送りハ他驛同様セム車ヲ使用サシテ貰ヒタイ

一、驛長ニ對スル願ヒダガ驛長ハ少ナクトモ月ニ一度ハ其ノ關係炭坑ノ視察ヲナシ事情ノ認識位シテ居テホシイ、貯炭表ノ如キモ實際ニ見タ上テ報告シテ欲シイ

一、池尻驛ノト號車ハ毎日約二十臺位ノ配命ハアルガ實際ニ配車サレルノハ約七、八臺位ニテ此ノ内豐州ノ機關庫送りヲ毎日頭カラ六臺取ラレル爲残りヲ五坑ニ割當テラレルコトニナリ殆ン

ドモラヘズ困ツテ居マスカラ至急何トカ増配方御願ヒシマス
 一、新平和炭坑
 四月ノ査定ナ一〇〇噸ニ増シテモラツタガ之デハ貯炭ハ全然減
 ラナイノミナラズカヘツテ多クナツタ有様デス、夜間作業ヲモ
 何デモ致シマスカラ夜ニ現在ヨリ三、四臺多クモラヘナイデセ
 ヲカ

煙草や炭の粉

大いに利用しませう

◇殆ど廢物として顧みられないやうな粉の利用法……煙草の粉が植物の害蟲を防ぐに效のある事は大方の人が知つて居ますが、これが樟腦以上に衣類の防蟲に效くことも時節柄序に心得ませう。

冬物を片附ける時季に臨んで、もし煙草の粉を持合せてゐたら日本紙に包んで箆筒の中に入れることです。

◇粉炭を捨て、了ふやうな不心得者はあるまいと思ひますがよくくゝの使ひ残りがあつたらそれは臭氣止めとなり濕氣を吸収し腐敗を防ぐことに利用することが出来ます。例

へぼ夏に向つて流しもとに少し許り撒けば臭氣を發散せず皿に盛つて食物戸棚の中に入れておくともろゝの臭氣を吸収し同時に濕氣を吸収しますし動物性の肉類に振りかけておくと腐敗をとめるといふのです。
 もう一つ草花の根本にまいて花の色をよくするといふこともあります。
 ◇これから盛んに食べられる季節になる鶏卵の殻はよく干して摺つて粉にして、糖と一緒に袋に入れて洗顏に使ふと春の肌のキメはいが上にも調ひます、匙一杯位づゝ服用してもいゝわけです。



石炭鑛業權設定(自昭和十三年四月六日 至昭和十三年五月二日)

福岡鑛山監督局

試掘權設定

登録番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名
福岡 壹三三	遠賀郡芦屋町並ニ海面	三、七〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目 三菱鑛業株式會社
同 壹三六	八幡市	四、九〇〇	八幡市枝光 久富商事株式會社
山口 壹三二	厚狹郡小野田町地先海面	一、〇〇〇、〇〇〇	宇部市小串 濱田 湊
大分 壹三六	大野郡野津市村北海部郡南津留村大分郡吉野村	七、三〇〇	東京市麻布區永坂町 原田茂俊 外一人
長崎 壹五一	西彼杵郡崎戸町地先海面	九、四〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目 九州炭礦株式會社
熊本 壹三〇	天草郡一町田村宮地岳村	一、五〇〇	同 市芝區松本町 原田 茂子
長崎 壹五三	西彼杵郡香焼村地先海面虹燒村地先海面高島村地先海面	六、七〇〇	小倉市室町 小林 徳一郎
福岡 壹四一	遠賀郡水巻村若松市	一、八〇〇	下關市唐戸町 貝島 合名會社
佐賀 壹七四	佐賀郡西川副村地先海面南川副村地先海面東與賀村地先海面	九、七〇〇	東京市中野區大和町 小泉 安太郎
同 壹七五	同郡大詫間村地先海面	一、〇〇〇、〇〇〇	同 上
同 壹七六	同郡地先海面南川副村地先海面	一、〇〇〇、〇〇〇	同 上
同 壹七七	同郡川副村地先海面	九、八〇〇	同 上
山口 壹三三	美禰郡赤郷村萩市	九、三〇〇	大連市連鏡街心齋橋通 宮原 義典
熊本 壹三三	天草郡今津村阿村並ニ海面	一、〇〇〇、〇〇〇	佐世保市園田町 藤原 虎一

長崎	三九三	東彼杵郡福重村松原村菅瀬村千綿村	九九、八五〇	大阪府北河内郡三郷町	高須重彦 外一人
同	三九四	同郡千綿村並ニ海面	九〇、〇九九	同 上	
福岡	三九三	鞍手郡山口村笠松村	二七、八四〇	福岡市龜原	楠伊勢吉 外一人
長崎	三九五	北高來郡戸石村並ニ海面西彼杵郡日見村地先海面	九九、〇〇〇	福岡縣鞍手郡木屋瀬町	九州探炭株式會社
山口	三九四	厚狹郡小野田町地先海面福岡縣門司市地先海面	九七、〇〇〇	東京市日本橋區吳服橋一丁目	野上鑛業株式會社
同	三九五	吉敷郡東岐波村地先海面西岐波村地先海面	九七、〇〇〇	山口縣熊毛郡三井村	山本 貞彦
同	三九六	宇部市地先海面	六六、〇〇〇	東京市杉並區荻窪	中尾 謹次郎
熊本	三九四	球摩郡湯前村	九五、四〇〇	東京市世田谷區大原町	原田篤久 外一人
同	三九五	同郡多良木町湯前村久米村	九六、九〇〇	同 上	
沖繩	九三三	八重山郡竹宮村	七六、三〇〇	東京市澁谷區神衛	片峰利雄 外四人
同	九三三	同 上	九九、三〇〇	同 上	
福岡	九三三	同 上	九二、三〇〇	同 上	
同	九三三	同 上	一二、七〇〇	飯塚市立岩	株式會社 麻生商店
福岡	六五四	三池郡銀水村並ニ海面	一八、〇五〇	同 上	
同	六五四	嘉穂郡桂川村	六三、五〇〇	東京市世田谷區大原町	原田篤久 外一人
熊本	三〇九七	球摩郡湯前村水上村黒肥地村	九三、〇〇〇	同 赤坂區新坂町	花田卯造 外一人
長崎	三九五	北高來郡小野田村長田村並ニ海面	九八、三三八	宇部市沖字部	竹中 雪藏
大分	三三七	東國東郡姫島村並ニ海面	九三、八二九	山口縣厚狹郡高千帆村	平岡 平熊
山口	三九二	厚狹郡厚狹町	九三、六〇〇	門司市大里町の場町	三崎 友一
長崎	三九五	南松浦郡奥浦村岐宿村	九三、七〇〇	大垣市西船町	上田重助 外一人
同	三九五	西彼杵郡時津村並ニ海面村松村地先海面			

同	三九五	同郡村松村時津村並ニ海面	九三、三〇〇	同 上	
同	三九〇	同郡村松村並ニ海面	九五、〇〇〇	同 上	
同	三九一	同郡時津村並ニ海面村松村地先海面	九九、八〇〇	同 上	
同	三九二	同郡長浦村村松村並ニ海面時津村地先海面	九八、〇〇〇	同 上	
同	三九三	南松浦郡福江町並ニ海面	九四、〇〇〇	佐世保市萬津町	有吉 德太郎
福岡	六五九	企救郡松ヶ江村地先海面	九八、八〇〇	宇部市沖字部	竹中 雪藏
同	六五〇	粕屋郡勢戸村	五四、一〇〇	戸畑市戸畑	明治鑛業株式會社
山口	三三三	宇部市地先海面吉敷郡西岐波村地先海面	九二、〇〇〇	宇部市沖字部	竹中 雪藏
同	三三三	厚狹郡小野田町地先海面	三九、八五〇	宇部市沖字部	東見初炭礦株式會社
福岡	六五四	企救郡松ヶ江村地先海面	一〇〇、〇〇〇	東京市日本橋區吳服橋一丁目	野上鑛業株式會社
山口	三三六	豐浦郡川中村	九三、八〇〇	宇部市沖字部	板垣滿太 外一人
同	三三六	厚狹郡厚南村	五四、〇〇〇	岡山市大供	宇治 大三
長崎	三九四	南高來郡西郷村大正村並ニ海面	九五、〇〇〇	佐世保市谷郷町	金谷敬二 外一人
同	三九五	同 上	九九、〇〇〇	同 上	
同	三九六	東彼杵郡菅瀬村竹松村福重村西大村	九七、八〇〇	大阪府北河内郡三郷町	高須重彦 外一人
同	三九七	同郡菅瀬村福重村	九六、〇〇〇	同 上	
同	三九八	同郡菅瀬村西大村	九八、〇〇〇	同 上	
同	三九九	同郡松原村福重村千綿村	九五、三〇〇	同 上	
福岡	六五五	山門郡大和村三池郡高田村並ニ海面開村地先海面	九七、〇〇〇	東京市日本橋區室町二丁目	山門炭礦株式會社
山口	三三四	大津郡日置村大津賀村	九三、〇〇〇	唐津市唐津	石田節一 外一人

佐賀 三六	小城郡西多久村東松浦郡相知町	八四、〇〇〇	戸畑市戸畑	明治鑛業株式會社
大分 三六〇	中津市並ニ海面下毛郡和田村地先海面	一、〇〇〇、〇〇〇	直方市直方	大岡 富太郎
同 三六二	下毛郡新眼村和田村並ニ海面	九一、五〇〇	同 上	
長崎 三七〇	西彼杵郡伊木力村長興村並ニ海面東彼杵郡西大村地先海面	九三、〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	落合 久次
同 三七三	同郡長興村並ニ海面伊木力村地先海面	九七、〇〇〇	同 上	
熊本 三〇〇	天草郡上村中村並ニ海面	九五、〇〇〇	佐世保市園田町	藤原 虎一
同 三〇二	同郡登立町上村中村	九五、七〇〇	同 上	
福岡 三〇七	粕屋郡多々良村久原村	三七、〇〇〇	門司市露月町	藤富 又一
長崎 三七四	南高來郡西郷村大正村並ニ海面	九九、〇〇〇	佐世保市相生町	永安 惣外一人



炭界日誌

四月廿一日(木)曇後晴
 △開鑛炭坑爭議に對し速かに復工すべき旨我軍當局より布告を發す。
 △久保滿鐵理事は本日大阪クラブに於て滿洲炭は内地の需要に應じ得ないと言明した。
 四月廿二日(金)曇時々晴
 △若松合同石炭第三期定時株主總會を開き松原次郎、中島慶治の兩氏常務に選任さる。
 四月廿三日(土)曇後晴
 △福岡鑛山協會主催にて日田町公會堂に於て講演會開催。
 四月廿四日(日)曇後晴
 △鑛山學會大會は今明日戸畑明專に於て開催。
 四月廿五日(月)晴
 △本會並に本社の定時株主總會は直方市鑛山俱樂部に於て開催。
 △常磐石炭鑛業會臨時會開會鐵鋼配給統制問題に關し協議す。
 四月廿六日(火)晴
 △福岡鑛業課長佐分利輝一氏着任す。
 四月廿七日(水)小雨
 △石炭聯合會では本日工業クラブに於て理事會開會炭坑用鐵鋼配給統制問題を協議す。
 四月廿八日(木)晴
 △石炭聯合會定時評議員總會。

四月廿九日(金)天長節晴

△本社々員一行阿蘇登山耶馬溪探勝旅行に出發す。

四月三十日(土)晴

△筑豊石炭鑛業會門司俱樂部に於て總會を開く。

△若松港浚渫問題に關し炭商組合にて委員會を開く。

五月一日(日)晴後雨

△九州採炭臨時總會を開き増資に關する経過報告並に本店を木屋瀬から東京に移轉の件を可決す。

五月二日(月)曇小雨

△日本鑛業會社は本日重役會に於て倍額増資を決定す。

△三池鑛業所永年勤績従業員表彰式舉行。

五月三日(火)曇

△本社武内専務、西本理事上京。

△商工省鑛山局長小金義照氏北支鑛業視察の旅を終へ本日門司に歸着。

△若松石炭商組合代議員會開會。

五月四日(水)曇

△藤井炭坑落磐で採炭夫一名即死。

五月五日(水)曇

△本社藤井取締役、炭商組合深田理事等上京。

△燃料協會第十五回大會本日より三日間大阪に於て開會。

五月六日(金)雨時々曇

△本社商務委員一行早良炭礦を視察す。

五月七日(土)晴

△内地有力炭業者等北支へ調査團派遣に決定。

五月八日(日)晴時々曇

△小野田炭礦會社設立に決定す。

五月九日(月)曇

△鑛業法改正調査委員森山、佐野、平田、朝比奈の諸氏本日博多着直ちに筑豊鑛實地視察に向つた。

五月十日(火)晴

△日鐵の内地炭手当昭和系八社と契約成立最低賃に四圓參拾錢値上げ決定。

五月十一日(水)晴

△九州採炭は本日臨時株主總會を開き倍額増資五百万圓完了を報告す。

五月十二日(木)晴

△福鑛局より地方鑛山監督局の機構改革案を本日商工省に送附す。

△三菱鑛業所は炭坑稼働者に特別手当支給を發表す。

五月十三日(金)晴

△石原産業松浦炭田四十二鑛區三千八百万坪を買収す。

△今年年度石炭増産に關し福鑛局では本日より一週間協議會開催。

五月十四日(土)晴

△松浦線の石炭輸送計畫成る。

五月十五日(日)曇後雨

△坑内保護労働者使用認可互助會は約千四百名に決定す。

五月十六日(月)曇

△藤井田中鑛業所東川崎炭坑本日より入會す。

五月十七日(火)曇

△新手炭坑鑛實問題懇談會開催。

△福岡縣坑本商組合臨時總會を開く。

△本社武内専務西本理事歸社。

五月十八日(水)雨

△本社藤井取締役歸社。

△石炭商組合に於て重油問題報告會を兼ね今後の運動方針決定す。

五月十九日(木)

△石炭現場係員養成所開所式舉行本社より野上會長代理風戸主事出席。

五月二十日(金)晴

△筑豊鑛業會は門司俱樂部に於て總會を開き會長制を復活貝島太市氏會長に就任。





互助會文藝

和歌

三輪則一選並添作

課題 港

浚渫機しきりに動く音聞え
みなとの工事しげくなりぬる
大船に行き歸りする人の群
いそがしげなり朝の港え
岩木つむ船のつどひて若松の
みなとの朝そことに賑ふ
とつくにの船も入り来て
賑ひの年ことにます若松港

(五城窓)

(響 洋)

(由基世)

(全)

課題 幟

(註) 「よぼろ」とは壯丁のこと

丘の上の若葉がくれの一つ家に
たてし幟の高くなびける
街路樹の若葉の上に鯉のぼり
さやかにみゆる市の朝明け
五月晴雲の波間を大らかに
わけつゝ泳ぐ鯉のぼりかな
凱旋の夫を迎ふる新緑の
丘にめでたき鯉のぼりかな
初夏のみどりしたる森の上を
泳ぐが如し大鯉のぼり
鯉のぼり五月の空にひれふりて
ほしいまゝなりゆく雲を見る

(五城窓)

(全)

(浅 繪)

(由基世)

(響 洋)

(五城窓)

選者追詠

さながらに五月の空を泳ぐごと
尾ふりひれふる鯉幟かな

俳句

琴月園雷鳴雲選並添作

課題 唇氣樓。夏隣り。接穂。薊

佳作

唇氣樓お囁話のさまを見る
唇氣樓萌草の丘に仰臥して
篠原や葉のみ茂りて鬼薊
洗濯にいそしむ主婦や夏近し
臺木から選び秘めたる接穂かな
鏡臺に一輪ざしや鬼薊
垣なぶる枝垂れ柳や夏隣
山茶屋に憩ふて見し唇氣樓
しゝみ蝶来て戀すちよふ眉つくり
まぐさ薊り取殘したる薊かな
太き手に術を秘めたる接木かな
夏隣り山住の子海を戀ふ
鬼薊咲榮て居る無縁塚

(響 洋)

(全)

(浅 繪)

(杉 堂)

(由基世)

(響 洋)

(白 双)

(全)

(浅 繪)

(白 人)

(響 洋)

(浅 繪)

拾 内

裾の来て既草の中の薊かな
長閑日を魚津の濱の海市かな
老いの手の古木接穂芽萌へ出けり
接穂して幾歳榮ゆる臺木かな
睡蓮の蕾も見えて夏近し
名無し草黄白に咲いて夏隣
鬼薊淡紫の本をつかみ差し
蜻蛉に投込んである薊かな
秘めし手の接穂を覗く雀から
蝶の来て花にはじろふ薊かな
我秘密笑顔に満たす接木かな
夏隣り叡山嵐さら〜と

(響 洋)

(浅 繪)

(白 双)

(響 洋)

(杉 堂)

(響 洋)

(全)

(浅 繪)

(白 人)

(響 洋)

(白 人)

非常時の春よ遊廓の三味が泣く
泣く丈けは泣ひて呑んだが猫いらす
叱られて泣きし若き日なつかしい
胸の悶へ堪へかね泣きに泣しやくる
胸惱む纏れば解け夢に泣き
酒の云ふ罪さと笑ふサーヒス女
譚もなく笑ふ女のすこい顔
笑い過て叱られし聲亦笑ふ
笑ふかと思れば泣けるヒステリー女
笑ふまいと思ふ程笑ひたく笑ふ
馬鹿にされた様な笑いを我怒り
心合はぬ同士端居にそら笑ひ
爆笑の跡は將軍目の光る
ふと見違へし女の笑のこすばゆき



互助會文藝原稿募集

- △和歌 選並添作 三輪則一氏
 一、若竹 今年生へたる竹の伸びて竹と
 なりたるもの今年竹ともいふ
 之は説明の要なかるべし
- △俳句 選並添作 琴月園雷鳴雲先生
 初心者ノ爲メニ故人ノ参考句ヲ表ス
 古拾物見の松にはすかしや (芭蕉)
 合宿に僧と寝たり木綿蚊帳 (月兎)
 牡丹切つて氣のおとろなへし夕かな (嵐雪)
 夕立や草葉摺む村雀 (蕪村)
 象に乗つて通る水際の浮巢哉(虚子)
- △川柳 選並添作 琴月園雷鳴雲先生
 六月十日 (嚴守のこと)
 一、一題に付五首又は五句以内とし批評出来るよう
 一、用紙に充分餘白をあけられたし
 一、入選作(天地人)には選者より短冊を贈られます
 右ノ通り住所氏名明記願ひます
 右ノ通り互助會報五月號原稿募集致シマスカラ齎ッ
 テ御投稿願ヒマス

互助會報編輯部

編輯後記

『十八日朝來徐州包圍態勢を整へて總攻撃に入つた我軍の一部は、十九日朝徐州西方飛行場を確保し、更らに徐州驛に向け怒濤の如く殺到、遂に同九時城壁西北角に感激の日章旗を翻した。徐州の敵は我軍の猛追に追はれて算を亂して、目下東南方に向け潰走中である。』この號外が鈴の音勇ましく街頭を賑はし、今朝の各新聞は徐州陥落を大々的に報道してゐる。

昨年十二月十三日世界戦史上特筆大書すべき敵首都南京陥落を契機として、北支、中南支に於ける親日新政權樹立に忙殺され南支に於ける戦局は一進一退あり、或る時は戦局は對峙状態に入り進展しなかつた。又三月末の台兒莊の小戦争に關し、支那側はあらゆる宣傳機關を總動員して、輪に輪をかけて戦勝のデマ報道をなし、世界の耳目を完全に欺満したのみならず、日本の一部にも、其のデマ宣傳に乗せられた者さへあるが、徐州の大勝利は、このデマ宣傳を

一べんに吹き飛ばした。
 由來熟し易く冷め易きは、我が國民性の一大欠点である。然し銃後の護りに冷熱があつてはならない。勝つて兎の緒を締め、飽くまで暴戾なる蔣政權打倒に邁進すべきである。

若松市會議員選挙もあま一句に迫つて、約五十名の立候補者が市内目抜き場所に立看板を並べて居るが、相變らず舊態依然たる顔觸れで、新進氣鋭の新人は一人も見當らない。
 編輯子が十二年前の選挙の際、普選を前にして理想選挙の模範を示すと宣言して立候補し、運動員も使はず、挨拶状も出さず勿論立看板も立てず、旭座と公會堂まで政見發表演説會を開いただけでも三十二票得票があつた。しかも旭座の時は金拾錢也の入場料を徴収したので、選挙費用は差引き七十六圓八十錢儲かつた。天下廣しと雖も一票に付貳圓四拾錢の特參金附得票をしたのは、蓋し吾輩を以て空前絶後であらう。
 (五月二十日 才津原生)

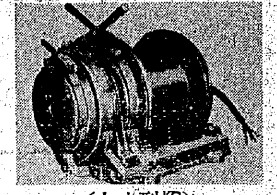
互助會報第三卷・第五號

購 一冊 金參拾錢 郵税共
 半年分 金壹圓八拾錢同上
 一年分 金參圓六拾錢同上
 料金は前金の事

昭和十三年五月十七日印刷納本
 昭和十三年五月二十日發行

若松市本町二丁目
 石炭鑛業互助會
 發行人 風戸 道康
 編輯人 若松市堺町三丁目
 印刷人 吉田 万造
 若松市堺町三丁目
 印刷所 吉田印刷所
 電話 六五二番

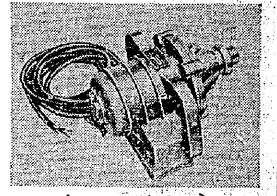
若松市本町二丁目
 發行所 石炭鑛業互助會
 電話 長四七七八番
 七三〇六九番



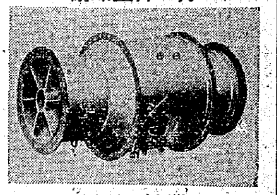
(九六型捲)



(九六型モータープーリー)



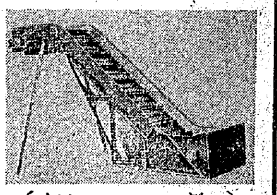
(コールドリル)
耐爆型 3/4馬力



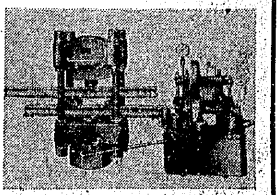
(局所扇風機)



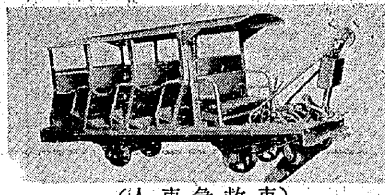
(大型電氣捲)



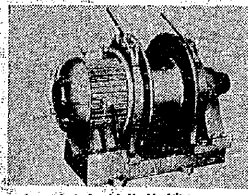
(チェーン・ローダー)



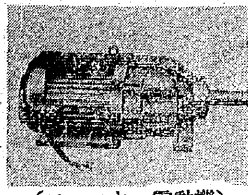
(水圧式レール棒曲機)



(人車急救車)



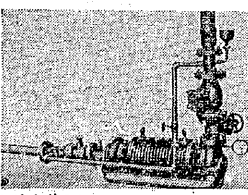
(小型萬能捲)



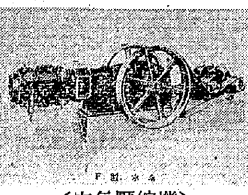
(コンベヤー電動機)
GX-N-S型



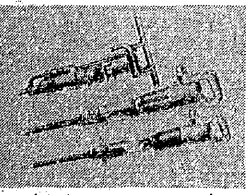
(電氣開閉器)



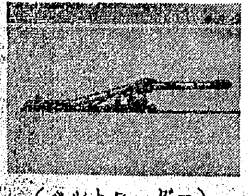
(掘進用タービンポンプ)



(空氣壓縮機)



(ロツク・ドリル)
(ピツク・ハンマー)



(ベルトローダー)

鑛山用・工場用・諸機械・精密測定機

株式
會社
谷
商店

福岡市上小山町三ノ四番地
電話(東)五七〇・一九〇六・一九七九

ヘルト・コンベヤー設計製作・火工品 鑄鋼品・鑄鐵製品

代理關係

日本機械製造株式會社	草場計器株式會社	藤川鐵工所株式會社	東京鐵工所株式會社	大隈鐵工所株式會社	日本S.K.F.興業株式會社	日本チエーン製作所	瓜生製作株式會社	獨乙製鋼株式會社	獨乙プロットマン鑛山機械株式會社	西電氣工業株式會社
------------	----------	-----------	-----------	-----------	----------------	-----------	----------	----------	------------------	-----------

毛利製作所	植田鐵工所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所	關西鑄鐵所
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

昭和十三年四月七日第三種郵便物便認可
昭和十三年五月二十日發行

石炭鑛業互助會報

發行所 若松市本町三丁目

石炭鑛業互助會